

② ひょうご・東北交流公演 兵庫県立ピッコロ劇団ファミリー劇場 「飛んで 孫悟空」

兵庫県立ピッコロ劇団ファミリー劇場の原点は、阪神・淡路大震災直後に劇団員が避難所である小学校のグラウンドや体育館で子どもたちの心のケアを目的として実施した被災地激励活動にある。そのファミリー劇場の中でも評判が高く、ピッコロ劇団の財産演目の1つでもある「飛んで 孫悟空」を、震災当時、他府県の皆様にお世話になったお礼の気持ちと復興への願いを込めて東北（宮城県、福島県）において上演した。あわせて、地域の子どもたちや高校生等を対象とした演劇ワークショップを実施した。

1 | 日時・場所

ア 福島県いわき市

平成26年8月14日(木) 午後2時開演
いわき芸術文化交流館アリオス大ホール

イ 宮城県仙台市

平成26年8月17日(日) 午前11時／午後2時開演
日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）シアターホール



2 | 公演内容

【演 目】

「飛んで 孫悟空」

日本を代表する劇作家で童話作家の別役実が「西遊記」を下敷きにして、ピッコロ劇団に書き下ろした奇想天外なファミリー劇場



【出 演】

兵庫県立ピッコロ劇団員、東北・仙台を中心に活躍する俳優4名

【スタッフ】

作＝別役 実／演出＝平井久美子（ピッコロ劇団）
振付＝森田守恒／美術＝加藤登美子
音楽＝橋本 剛／舞台監督＝鈴木田竜二（ピッコロ劇団）
衣裳＝藤野雅胡



来場者の感想

- とてもおもしろくて子どもたちが喜んでました。大人にとっても舞台セットや衣裳がすばらしくて、目が離せませんでした。楽しい舞台をありがとうございました。（30歳代・女性）
- 役者のひとりひとりの演技がとても上手で、役の個性がでていた。すごかったです！仙台から出演した役者さんが多くいて、とてもうれしかったです。（10歳代・女性）
- とても楽しい時間を過ごし幸せな気持ちになりました。またの機会を楽しみにしています。（70歳代・女性）
- 小学1年生の息子には初めての劇でしたが、声をたてて笑ってとても楽しんでいました。途中であきることもなく夢中になっていたの、あつという間でした。とてもいい思い出になりました。（女性）
- 孫からいっしょに行こうと。東北の震災からの復興はまだですが、気持ちを前向きにして、少しでも前進します。（70歳代・男性）
- 私は阪神・淡路大震災の被災者でもあり（西宮に住んでいました）、東日本大震災も経験しています。この2つの県の交流はとてもうれしいです。今後もぜひ続けてください。（40歳代・女性）
- 石巻では普段はこんなに大きな舞台は観ることができません。とても素晴らしかったです。正しいことはだれかが引き継いでいくことが大切だと。じ〜んときました。ありがとうございました。（50歳代・女性）

3 | 観劇者数

福島県いわき市 820名、宮城県仙台市 931名 合計 1,751名

③ 阪神・淡路大震災20年メモリアル特別展示

阪神・淡路大震災を風化させることなく後世に伝えるとともに、将来の巨大地震等への備えの必要性を国内外に発信する特別展示。人と防災未来センターの壁面ライトアップと一体的に実施した。



1 期間・場所

平成26年11月7日(金)～平成27年6月28日(日)
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

2 テーマ

「1.17 阪神・淡路大震災20年 伝えよう 未来へ 世界へ」

3 内容

Part1 西館2階企画展会場（防災未来ギャラリー）

テーマ「あらためて振り返る 1995.1.17」

内容 ・被災状況を示す大型マップの展示 ・当時の時代雰囲気が感じられる所蔵未公開資料の展示
・被災地の3D記録映像の特別上映 ・タッチパネルによる復旧・復興のデータ閲覧 等



Part2 東館2階展示スペース（通路壁面）

テーマ「1.17と3.11 ふたつの災害の特性を知る ー阪神・淡路大震災と東日本大震災」

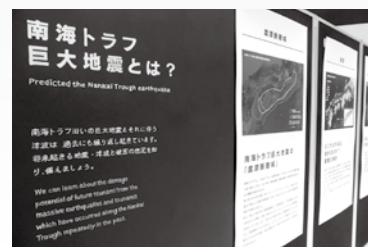
内容 ・両災害の被害データ、特徴等を比較して紹介

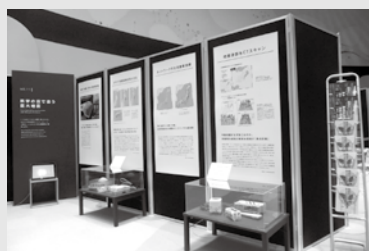


Part3 東館3階特設会場（多目的ルームほか）

テーマ「20XX.X.X 将来の巨大地震に備える」

内容 ・デジタルマッピングジオラマ模型による首都直下地震の被害想定を紹介
・首都直下地震想像画の展示 ・南海トラフ巨大地震の被害想定等の展示
・避難所の一角の原寸再現 ・防災・減災の先進的な取り組み事例紹介等





西館北面、西面

テーマ「阪神・淡路大震災を後世に伝える」

内 容 ・LEDを使った夜間の壁面ライトアップ（時期：平成27年3月～）



4 | その他

ア 東京都内で巡回企画展を開催

テーマ「1995.1.17から20年 もう一度振り返る阪神・淡路大震災」

- ・東京臨海広域防災公園 そなエリア東京（江東区有明）〔11月11日（火）～11月30日（日）〕
- ・日本科学未来館（江東区青海）〔1月14日（水）～1月28日（水）〕
- ・東京消防庁消防博物館（新宿区四谷）〔平成27年1月31日（土）～3月8日（日）〕



そなエリア東京



日本科学未来館



消防博物館

イ 資料室（西館5階）で企画展「震災資料をつなぐー収集・保存の軌跡ー」を開催

震災資料を収集・保存し、引き継ぐための活用にも取り組んできた資料室の軌跡と現状を「震災資料をつなぐ」「つながれた震災資料」の視点から紹介



5 | 観覧者数

177,977名

④ 兵庫県立美術館「阪神・淡路大震災から20年」展

災害や自然の驚異を扱った作品、県立美術館の震災からの復興紹介など、総合的な震災関連の展示会を開催した。

1 会期・場所

平成26年11月22日(土)～平成27年3月7日(土)

兵庫県立美術館 常設展示室



2 展覧会構成・展示内容

第1部 自然、その驚異と美

- ・人間にとって美であるとともに震災のような脅威ともなる自然の両面に焦点をあて、近現代の美術作品を展示（前期：1月14日まで、後期：1月17日から）

〔前期〕東山魁夷、林重義、マックス・クリンガーなど（兵庫県立美術館コレクション）

〔後期〕岩橋英遠、岡本太郎、川端龍子、片岡球子、黒田清輝、横山操ほか

第2部 今、振り返る—1.17から

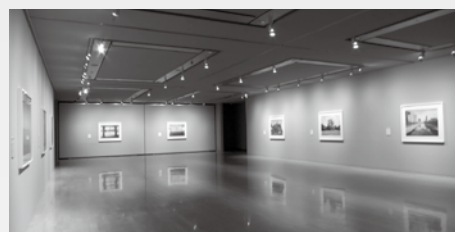
- 1) その時、美術館では 1995—2005
- 2) 中山写真スタジオの「文化財レスキュー」
- 3) 記憶を伝える—保存・修復と教育・普及

- ・美術品の被災状況や震災関連の展示など、震災後10年の当館の動きをたどる
- ・「文化財レスキュー」第1号として救出された写真家・中山岩太の作品と資料などを展示
- ・東灘区の邸宅の庭から救出された北村四海《橘姫》をはじめ、震災など様々な困難を経て受け継がれてきた作品を、さらに未来へと伝える美術館の活動を紹介



第3部 10年、20年、そしてそれから—米田知子

- ・明石市出身の米田知子が、震災から10年に際し芦屋市で制作・発表した写真作品を通じ、時を越えて見る人に訴えかける美術作品の力について考える



3 関連事業

ア あなたにも救える！水損資料保全ワークショップ—写真と紙資料—

〔日時場所〕平成27年1月24日(土) 15:30～17:00 当館アトリエ2（参加者数20名）

〔講師〕吉原大志・東野将伸（歴史資料ネットワーク）、横田直子（兵庫県立美術館学芸員）

イ 阪神・淡路大震災20年・語り継ぐこと／リレートークVol.4

救うこと、残すこと—「作品」と「思い」

〔日時場所〕平成27年2月24日(土) 16:00～17:30

当館レクチャールームおよび展示室（参加者数42名）

〔お話し〕大槻晃実（芦屋市立美術博物館学芸員）、江上ゆか（兵庫県立美術館学芸員）

ア、イのほか学芸員によるギャラリートーク、修復担当学芸員によるギャラリートーク、こどものイベント、ミュージアム・ボランティアによるガイドツアーを実施。

4 観覧者数

16,311名

⑤ “心に歌声を”スペシャルコンサート

音楽の力を通じて阪神・淡路大震災の犠牲者を追悼し、震災の悲しみや復興に向かう決意を分かち合いつつ、震災の経験と教訓を一層強く発信するためのコンサートを開催した。

案内役の三枝成彰氏による各曲紹介のもと、国内外で活躍する才能豊かな若手演奏者たちに加え、ジャパン・ヴィルトゥオーゾ・シンフォニー・オーケストラ有志の方々も出演して、名曲の数々を披露。終演時には、アンコールとして出演者及び来場者全員で「赤とんぼ」を合唱した。

1 | 日時・場所

平成27年1月5日(月) 18:00~20:00
神戸新聞松方ホール



2 | 公演内容

【演奏曲及び出演者】

〈ご案内役／作曲家 三枝成彰〉

- 1 弦楽のためのアダージョ (バーバー)
指揮／秋山愛美 弦楽合奏／ジャパン・ヴィルトゥオーゾ・シンフォニー・オーケストラ有志
- 2 The Long And Winding Road (レノン＝マッカートニー / 三枝成彰 編曲)
バイオリン／服部百音
指揮／秋山愛美 弦楽合奏／ジャパン・ヴィルトゥオーゾ・シンフォニー・オーケストラ有志
- 3 カルメン幻想曲 (ワックスマン)
バイオリン／服部百音
指揮／秋山愛美 弦楽合奏／ジャパン・ヴィルトゥオーゾ・シンフォニー・オーケストラ有志
- 4 超絶技巧連弾曲「カルメンの誘惑と幻想」 (横山幸雄)
ピアノ／横山幸雄、石井楓子
- 5 カタロニア民謡「鳥の歌」 (ナターシャ・グジー (ウクライナ語詞、編曲))
歌・バンドゥーラ／ナターシャ・グジー
- 6 いつも何度でも (作詞：覚和歌子 / 作曲：木村 弓)
歌・バンドゥーラ／ナターシャ・グジー
- 7 カッチーニのアヴェ・マリア (V. ヴァヴィロフ)
歌・バンドゥーラ／ナターシャ・グジー
- 8 無伴奏チェロ組曲 第1番ト長調 BWV1007より
“プレリュード” (J.S.バッハ)
チェロ／宮田 大
- 9 震災のためのレクイエム (三枝成彰)
チェロ／宮田 大
指揮／秋山愛美 弦楽合奏／ジャパン・ヴィルトゥオーゾ・シンフォニー・オーケストラ有志



3 | 来場者数

437名

■ “心に歌声を”スペシャルコンサートについて

阪神・淡路震災復興支援10年委員会及び兵庫県で構成する実行委員会により、震災3年目から10年目まで、同趣旨のコンサートを毎年開催。

その後、平成22年1月には、兵庫県、ラジオ関西、メイ・コーポレーション等で構成する実行委員会により「阪神・淡路大震災15周年事業“心に歌声を”スペシャルコンサート」として開催された。

⑥ ～山田洋次監督・竹下景子さんを迎えて～ 次世代へ“歌い継ぐ・語り継ぐ”市民のつどい

震災を経験していない神戸市民が4割を超える中、震災の経験によって生まれた優しさ、あたたかさ、強さを発信する機会として「市民のつどい」を開催した。

1 | 日時・場所

平成27年1月15日(木) 15:30～17:30
神戸文化ホール 大ホール

2 | プログラム

- 15:30 「しあわせ運べるように」ほか合唱
作詞作曲者の臼井真先生と西灘小学校「しあわせ運ぶ合唱団」(134名)による合唱
来場者全員による「しあわせ運べるように」合唱
- 16:00 震災20年メッセージ【映像】
・プロスポーツ選手(※)からのビデオメッセージ
※オリックス・バファローズ、ヴィッセル神戸、INAC神戸レオネッサ
・神戸ゆかりの方、震災を経験した市民から寄せられたメッセージの紹介
- 16:30 対談 山田洋次監督、竹下景子さん、久元喜造神戸市長による対談
- 17:30 閉会



3 | 対談内容

〔登壇者〕映画監督 山田洋次 監督
俳優 竹下景子 さん
神戸市 久元喜造 市長

〔主な内容〕

- ・冒頭、「男はつらいよ」48作のダイジェスト映像・長田でのロケ風景を映写
- ・久元市長が進行役となって三者による対談が進行し、山田洋次監督からは、「男はつらいよ」のロケを被災地で敢行したいきさつ、思い、エピソードなどが披露された
- ・竹下景子さんからは、「山田組」の撮影雰囲気、渥美清さん・寅次郎の人柄について紹介されたほか、神戸や東北で行っている被災地での詩の朗読への思いが語られた
- ・久元市長は、「神戸にはいろいろな課題があるが、互いに力を合わせ助け合って、ポスト震災20年の神戸を市民の皆さんと一緒につくりあげたい」と語った



4 | 参加者数

約1,100名

■登壇者プロフィール

○山田洋次(やまだ ようじ) 映画監督

「幸福の黄色いハンカチ」や「たそがれ清兵衛」、「母べえ」など、様々な映画賞を受賞した名作がある。代表作である国民的映画シリーズ「男はつらいよ」の最終作となった「寅次郎紅の花」は地元からの熱心な要請に応え、震災後の神戸・長田区でもロケを実施。

○竹下景子(たけした けいこ) 俳優

映画『男はつらいよ』のマドンナ役を3度務め、『学校』では第17回日本アカデミー賞優秀助演女優賞を受賞。テレビ・映画・舞台への出演の他、国連WFP協会親善大使など幅広く活動。また、神戸をはじめ震災被災地において詩の朗読を続けている。

⑦ 竹下景子 詩の朗読とメモリアルコンサート

被災者のこころの癒しと、被災地の文化的復興のため、全国から公募した震災等にかかる詩を女優の竹下景子さんが朗読。震災でなくなられた方への追悼と復興の歩みを共有し、震災の記憶を風化させることなく継承するとともに、詩集等を作成し全国に発信した。

1 | 日時・場所

平成27年1月18日(日) 14:00~16:00
県立芸術文化センター中ホール

2 | プログラム

14:00 開会 黙祷
14:06 朗読／竹下景子 伴奏／林 晶彦、金関環、マリオネット
パントマイム／伝三F 歌／あまゆうず
15:00 演奏／マリオネット、絆マンドリンオーケストラ
朗読／竹下景子 歌／オリンピア都保育園



3 | 朗読内容

ア 「詩集 明日への記憶」から ・Tちゃんのひまわり ・ことばが欲しい ・鼓動
・ガレキはゴミじゃない ・電話 ・優しさのバトンをつないで ・ミモザの花 他
イ 演奏 ・神戸から帰るとき ・東西巡礼 ・花だより ・光の中で ・夢は黒潮に乗って 他

■主な出演者

竹下景子／名古屋出身。「男はつらいよ」「北の国から」など本格派女優としての活躍の一方、伝説的番組「クイズダービー」では常に話題を提供していた。環境問題や福祉問題にも関心が高く、「世界の子どもにワクチンを日本委員会」や国連WFP協会親善大使として活動。

林水晶／ピアニスト。西宮市出身。1990年に兵庫県立近代美術館で開催された「シャガール展」での伝説的なデビューの後、世界各地で演奏活動を展開。現在、国立ソフィア管弦楽団からオファーがある。

金関環／バイオリニスト。ジュリアード音楽院出身。ニューヨークを中心に演奏活動を行い、カーネギーホールや国内でもリサイタルを開く。

マリオネット／日本におけるポルトガルギターの湯浅隆とマンドリン奏者の吉田剛士によるアコースティックユニット。ポルトガルの民族歌謡のファドに限らず、CM音楽でも活躍。現在大分麦焼酎「二階堂」のTVCMの音楽を担当。

4 | 参加者数

800名



⑧ 阪神・淡路大震災20年語り部のつどい 「これからの震災語り継ぎ 東日本大震災と阪神・淡路大震災」

阪神・淡路大震災20年にあたり、震災の伝承の意義を再確認するとともに、今後の語り継ぎについて考える契機とするため、震災の語り部がつどい、東日本大震災被災地の現状と語り継ぎ活動について具体事例を通じて学んだ。併せて、東日本大震災4年を機に、被災地への復興支援の気運をさらに高めた。

1 | 日時・場所

平成27年3月11日(水) 13:10~17:00
人と防災未来センター東館1階
こころのシアター

2 | プログラム

第1部 (13:10~14:35) 3Dドキュメンタリー

「大津波-3.11未来への記憶」上映

東日本大震災直後から3年余りにわたって定点観測的に継続取材した被災地の記録と、3年たつてようやく語り始めた被災者の「ことば」を軸に構成した未来へのメッセージ(NHKメディアテクノロジー制作・著作/80分)

第2部 (14:45~17:00)

「黙祷」(14:46)

あいさつ 河田恵昭 人と防災未来センター長

東日本大震災語り部体験発表&トークステージ

〔東日本大震災語り部体験発表〕

岩手県と宮城県から、自らの体験を次々に伝える活動を行っている2人が現地の最新状況と記憶を伝える活動について体験発表

元田久美子 宮古観光文化交流協会 学ぶ防災ガイド

阿部憲子 南三陸ホテル観洋 女将

〔トークステージ〕

東日本大震災語り部に、阪神・淡路大震災の語り部も交えて、これからの語り継ぎについて考えた。

○東日本大震災被災地より

元田久美子 阿部憲子

○阪神・淡路大震災被災地より

奥 秀雄 人と防災未来センター運営ボランティア

(語り部)

河田のどか 特定非営利活動法人さくらネット

防災教育担当

○コーディネーター

小林郁雄 人と防災未来センター上級研究員

・兵庫県立大学特任教授



3 | 参加者数

140名

⑨ ミュージアムロード賑わい創出事業

復興のシンボル施設である兵庫県立美術館を起点としたミュージアムロードに芸術性の高いオブジェを設置するとともに、まちの賑わいを創出する関連イベントを実施した。

1 実施時期・実施エリア

〔時 期〕平成27年2月～平成27年6月

〔場 所〕県立美術館から神戸市立王子動物園までを結ぶ「ミュージアムロード」周辺

2 事業内容

阪神・淡路大震災から20年を迎えることを機に、復興のシンボル施設である県立美術館から神戸市立王子動物園までを結ぶ「ミュージアムロード」において、未来への希望をイメージする芸術性の高いオブジェの設置や関連イベントを開催することにより、地元と協働して復興したまちに賑わいを創出する。

【オブジェの設置】

〔作 品〕「Sun Sister」（サンシスター）

（高さ約6m、表面材質FRP・ステンレス、鉄骨構造）

〔制 作 者〕ヤノベ ケンジ氏（49歳 大阪府在住 京都造形芸術大学教授・現代美術作家）

《作品に対する制作者のコメント》

過去・現在・未来を見つめ、希望の象徴としての「輝く太陽」を手に持ち、
大地に立つ少女像

〔設置場所〕兵庫県立美術館南側敷地 大階段下（神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1）

【オブジェ関連イベントの実施】

ア オブジェ設置プレイベント／第14回KEN-Viセミナー

〔日 時〕平成27年5月10日（日） 14：00～16：00

〔場 所〕兵庫県立美術館ミュージアムホール

〔内 容〕オブジェ制作者によるトークショー「街とアートの可能性」

〔参加者〕約190名

イ オブジェ関連イベント

〔日 時〕平成27年6月28日（日） 11：30～12：00

〔場 所〕兵庫県立美術館南側敷地 大階段下 オブジェ設置場所付近

〔内 容〕制作者による作品説明、地元なぎさ小学校による合唱、テープカット 等

〔参集者〕約300名



©2015 Kenji Yanobe

⑩ 県民総参加「減災」キャンペーン

阪神・淡路大震災から20年を迎え、今後発生する災害に備えるにあたり、県民・地域・職場において、「耐震化」「室内安全」「備蓄」「避難」の4つを重点目標とし、改めて自らの命は自ら守る実践活動に取り組むようキャンペーンを展開した。

1 自主防災組織等によるワークショップ・訓練の実施

自主防災組織等が概ね小学校区において実施する、防災・減災のためのワークショップ・訓練等を支援し、住民の意識醸成と地域における主体的な取組み促進を図った。

【期 間】 平成26年4月～平成27年3月

【実施主体】 県・(特非)兵庫県防災士会

【支援回数】 県内自主防災組織等812回

【支援内容】 防災訓練（住民避難訓練、情報伝達訓練、シェイクアウト訓練、避難所開設訓練 等）
防災勉強会（室内安全対策、食糧等備蓄、災害時の避難方法、地域の災害の歴史 等）
ワークショップ（防災まち歩き・マップづくり、クロスロードゲーム、ぼうさいダック 等）

2 県民総参加「減災」フォーラムの開催

自主防災組織等の先進的な防災・減災活動を紹介するとともに、学識経験者や専門家による防災・減災に関する講演等を通じ、県民の意識醸成を図った。



ア ひょうご「減災」のつどい

【日時場所】 平成27年1月31日(土) 兵庫県公館大会議室

【参加者数】 約350人

【内 容】 「震災子どもメッセージ」表彰式

基調講演「専門家と市民との減災コミュニケーション」

（講師）室崎益輝 兵庫県立大学防災教育センター長

事例発表 先進的な活動を行う自主防災組織等からの報告

・神戸市中央区エバーグリーンポートアイランド管理組合

（阪神・淡路大震災の被災体験を踏まえた住民によるマンション防災の取組み）

・三木市西奥地区（高齢化が進む中での地域防災の取組み）

・姫路市飾磨区小瀬自治会（近隣の施設・学校と連携した防災の取組み）

・豊岡市梶原自主防災組織（県北部地域での防災訓練や勉強会の取組み）

パネルディスカッション「自主防災組織と地域の防災専門家との連携」

コーディネーター：宇田川真之 人と防災未来センター研究主幹

パネリスト：事例発表者4名のほか、大石伸雄（特非）兵庫県防災士会 理事長

杉本明文 兵庫県防災監

イ 地域フォーラム

【日時場所】 平成27年1月9日(金)～23日(金)

兵庫県内各地（地域のつどいと同時に開催）

【内 容】 防災訓練、防災ワークショップ、防災講演会等

3 減災キャンペーンに係る広報・啓発

啓発パンフレットの配布（443千部）、減災カレンダーの配布（18千部）等



⑪ 震災20年消防団活性化支援事業

消防団を中核とした地域防災力の充実強化を図り、地域の安全に資することを目的とする「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」の趣旨を踏まえ、消防団と自主防災組織等が連携した訓練や研修を実施するとともに、消防団活動に対する理解を深めるパネル展示等を行い、団員確保に向けた普及啓発を行った。

1 消防団と自主防災組織等と連携した実践的な訓練や研修の実施

ア 日 時 平成26年6月～平成27年3月

イ 場 所 県内各市町（参加者数 約40,000人）

ウ 主な内容 消火訓練、放水訓練、避難訓練、救急救助訓練、救命講習、水防工法、機器取扱訓練など



2 消防団PRパネル展示の実施

ア 日 時 平成26年8月～平成27年3月

イ 場 所 県内34市町51ヵ所（来場者数 約55,000人）

ウ 主な内容 ・県内各地で消防団活動等を紹介するパネル展示を実施し、消防団活動への理解を深め、消防団への加入促進を図った。
・パネル展示にあわせ消防団PRチラシとクリアフォルダを配布した。



〔消防団活性化事業補助先一覧〕

消防団名	日時	場所	参加者数	内容
神戸市東灘消防団	H27.1.25	住吉川河川敷	1,109	放水訓練
神戸市灘消防団	H27.1.15	鷹匠中学校	300	担架搬送、バケツリレー、ロープ結索、水消火器訓練
神戸市中央消防団	H26.8.31	東遊園地	350	地震による津波を想定した屋内消火栓競技、飲料水給水訓練、小型動力ポンプ取扱訓練、水防工法訓練
神戸市兵庫消防団	H27.1.17/1.24	神戸市立会下山小学校校庭・ノエピアスタジアム前広場	800	追悼集会、煙体験、初期消火、救助訓練、避難訓練、救急救命訓練、地震体験、炊出し訓練
神戸市長田消防団	H27.2.28	丸山小学校	25	放水・消火訓練
神戸市須磨消防団	H26.10.26	椿谷公園	170	防災資機材等取扱体験
神戸市垂水消防団	H26.9.28	五色山東公園	50	AED取扱訓練、消火訓練、水消火器取扱訓練、救助訓練、炊出し訓練、煙体験、起震車による地震体験
神戸市西消防団	H26.9.14/10.5 H27.1.11/1.18/1.23	枝吉小学校・東町小学校・春日台小学校・美賀多小学校・高津橋小学校	1,565	初期消火訓練、避難訓練、救出救護訓練、搬送法、防災教育、救急救命訓練
神戸市水上消防団	H27.3.22	神戸市水上消防署内	39	避難訓練、消火訓練、情報収集、伝達訓練、炊き出し訓練
姫路市姫路東消防団	H26.9.21	藤和しらさぎハイタウンB棟	93	避難訓練、消火訓練、救出訓練、応急処置訓練、心肺蘇生訓練、防災講習
姫路市姫路西消防団	H26.9.7	御立公園駐車場	80	避難訓練、放水訓練、消火器取扱訓練
姫路市飾磨消防団	H26.8.31	姫路市立大塩小学校他	308	避難誘導訓練、初期消火訓練、AED取扱訓練
姫路市網干消防団	H26.7.13	網干駅前町公民館周辺	309	消火訓練、炊出し訓練、避難訓練、防災講習会
姫路市家島町消防団	H26.8.3	網場南バス停他	60	放水訓練
姫路市夢前町消防団	H26.9.7	姫路市夢前町前之庄三枝草サンホール	171	消化器・消火栓取扱訓練、避難訓練
姫路市香寺町消防団	H26.9.7	香呂農業構造改善センター周辺	108	消化器・消火栓取扱訓練、避難訓練、防災講義
姫路市安富町消防団	H26.9.27	安富北小学校北西道路上	24	避難訓練、放水訓練、消火器取扱訓練
尼崎市消防団	H26.10～H27.2	市内33ヵ所	5,279	初期消火訓練、避難・誘導訓練、救急・救護訓練、救出訓練、放水訓練、防災資機材取扱訓練、図上訓練、炊き出し訓練、防災マップ作成等
明石市消防団	H26.11.30/H27.3.8	明石市立二見小学校・明石市立清水小学校	769	救出救助訓練、放水訓練、避難誘導、初期消火訓練、応急手当、炊出し訓練、消防団の活動の広報
西宮市消防団	H26.11.16	西宮市立名塩小学校他	397	土砂災害等を想定した避難訓練、救助訓練、搬送訓練、放水訓練、展示
洲本市消防団	H26.10.26	洲本市立州浜中学校	780	津波を想定した伝達訓練、初期消火訓練、水門閉鎖訓練、放水訓練
芦屋市消防団	H26.11.8/H27.2.8	打出公園・大榎公園	350	心肺蘇生、AED取扱訓練、煙体験、放水訓練、消防団車両展示、天ぷら油火災発火実験、炊出し訓練、防災倉庫資機材展示
伊丹市消防団	H26.11.15～12.13	市内各小学校	500	初期消火訓練、避難訓練、応急手当、水防工法、救出救護、水難救助訓練等
相生市消防団	H26.10.18/11.1/11.29	青葉台小学校付近・那波小学校付近・相生小学校付近	955	情報伝達確認、避難訓練、避難所開設訓練、防火訓練
豊岡市豊岡消防団	H26.6.8/6.15/7.20	六方河川防災ステーション(立野拠点)・船町区会館前・山本区広場前	308	水防訓練、土嚢積み工法訓練、水防工法の実演、体験施設・試乗、初期消火訓練、放水訓練
豊岡市城崎消防団	H27.2.1	福泉寺	62	初期消火訓練、放水訓練、発電機・投光器の使用法
豊岡市竹野消防団	H26.10.19/10.26	林区公会堂周辺・須谷高齢者生活支援センター周辺	84	避難訓練、初期消火訓練
豊岡市日高消防団	H27.3.15	豊岡市日高町太田区内(公民館周辺)	53	リヤカーによる要救助者搬送及び物資搬送、消火訓練(消火器操作及び消火栓からの放水)、消防団の役割確認

消防団名	日時	場所	参加者数	内容
豊岡市出石消防団	H26.9.28	豊岡市立出石文化会館「ひばこホール」	100	初期消火訓練、消火器取扱訓練
豊岡市但東消防団	H27.3.8	豊岡市立但東市民センターホール・但東支所大会議室・駐車場	108	講義、心肺蘇生法の実技、AEDの取扱い、止血法、搬送法、応急担架作成方法、消火器・消防ホースの取扱方法
加古川市消防団	H27.1.25	加古川市野口町（水足公園及び水足公民館）	200	南海トラフ地震を想定した放水訓練、初期消火訓練、救護所の設営、避難誘導訓練、AEDの取扱い、炊出し訓練
赤穂市消防団	H26.9.21	神護寺周辺	360	森林火災を想定した避難訓練、炊出し訓練、放水訓練
西脇市消防団	H27.1.17/2.1	西脇市立比延小学校・大野隣保館	600	防災講話、土のう積訓練、消火訓練、放水訓練、炊出し訓練
宝塚市消防団	H27.3.1	鶴見台自治会会館	37	救急講習、搬送・応急処置訓練
三木市消防団	H27.1.17	自由が丘中央公園	611	地震を想定した倒壊家屋救出及び救急搬送訓練
高砂市消防団	H27.2.1	高砂市阿弥陀町阿弥陀市の池	51	救命ボート取扱訓練、救命ボート操作訓練、救命胴衣着用訓練
川西市消防団	H26.9.28	川西市立陽明小学校	400	放水訓練、避難訓練、消火訓練、救護訓練、炊出し訓練、煙道避難訓練、起震車による地震遭遇体験
小野市消防団	H26.11.16	小野市立下東条小学校	700	避難訓練、消火救出訓練、警察通信訓練、初期消火訓練、避難所開設訓練、炊出し訓練、給水訓練
三田市消防団	H27.1.17	三田市立広野小学校	650	避難訓練、消火器取扱訓練、煙体験、土嚢作り、資機材・消防団活動写真・車両の展示、炊出し訓練、放水訓練
加西市消防団	H26.11.2	加西市豊倉町公民館周辺	90	消火栓取扱、初期消火訓練、災害時要救護者の把握
篠山市消防団	H26.8.30	篠山市四季の森生涯学習センター	370	原子力災害を想定した研修会、救命講習
養父市消防団	H26.9.7	市内133集落の定められた場所	10,000	養父市一斉避難訓練、放水訓練、水防工法訓練、炊出し訓練
丹波市消防団	H27.2.22	幸世交流施設隣接グラウンド	100	水害や火災を想定した水防工法及び初期消火訓練
南あわじ市消防団	H26.10.26/11.23	南あわじ市立三原志知小学校・南あわじ市立神代小学校	750	防災訓練
朝来市消防団	H26.11.9	久田和集落センター	368	防災訓練
淡路市消防団	H27.1.18	育波中央公園・育波公民館	80	津波を想定した避難訓練、土嚢作り、炊出し訓練、防災訓練
宍粟市消防団	H26.11.16	東市場公民館付近	60	消火訓練
たつの市消防団	H27.1.17	たつの市の一時避難場所・たつの市立揖保川中学校	360	地震を想定した初期消火訓練・避難訓練、避難誘導・介助訓練、バケツリレー
猪名川町消防団	H26.11.15/11.22	大島小学校・揚津小学校	400	避難誘導訓練、炊出し訓練、消火訓練
稲美町消防団	H27.3.15	稲美町役場 防災倉庫前	31	初期消火訓練
播磨町消防団	H27.2.1	野添住吉神社	30	防火訓練
市川町消防団	H26.12.7	大蔵神社	20	放水訓練、消火訓練
福崎町消防団	H27.3.22	福崎町馬田区自治会公民館付近	50	放水訓練
神河町消防団	H27.3.8/3.15	吉富区野上隣保館・大畑コミュニティセンター他	64	消火栓訓練
太子町消防団	H27.3.29	太子町総合公園グラウンド	50	消火訓練、機械器具取扱訓練
上郡町消防団	H26.9.21	旧鞍居小学校グラウンド	260	土砂災害を想定した避難訓練、土嚢積み訓練、初期消火訓練、ホース取巻き訓練
佐用町消防団	H26.10.26	旧中安小学校	145	避難訓練、救助訓練、放水訓練、消火訓練、炊出し訓練、情報収集訓練
香美町消防団	H26.8.24	町内全域	8,446	防災訓練、消火訓練
新温泉町消防団	H26.11.16	B&G浜坂海洋センター	104	救急訓練、消火栓取扱訓練

⑫「巨大津波に備える」シンポジウム

南海トラフ巨大地震に備え、湾口防波堤や防潮堤等の整備効果についてわかりやすく情報発信するとともに、住民的的確な避難行動を促すソフト対策等も踏まえたシンポジウムを開催した。

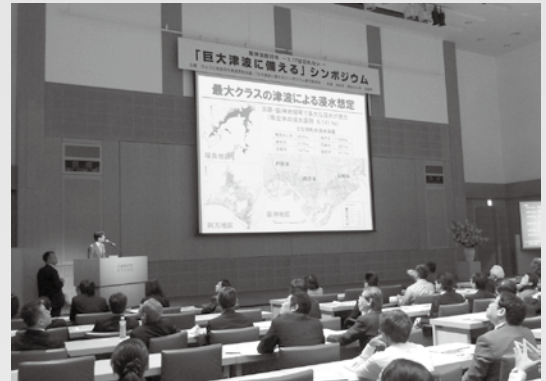
1 | 日時・場所

平成26年11月12日(水) 10:00~16:30
淡路夢舞台国際会議場 メインホール

2 | プログラム

1 講演

- ・東日本大震災の津波被害像と防災・減災対策
阪本真由美
名古屋大学減災連携研究センター特任准教授
- ・「撓(たわ)まず屈せず」釜石の復興まちづくり
若崎正光 釜石市副市長
- ・津波に対する防災・減災対策～東日本大震災の教訓を踏まえて～
富田孝史 港湾空港技術研究所海洋情報・津波研究領域長
- ・南海トラフ巨大地震に備えた津波対策～ハード・ソフト両面から～
金田義行 名古屋大学減災連携研究センター特任教授
- ・マスコミが見た津波からの住民避難
山野公寛 河北新報社報道部記者
- ・観光の視点からの災害対策
河野まゆ子 JTB総合研究所主任研究員



2 パネルディスカッション「南海トラフ巨大地震に備える」

コーディネーター 金田義行
パネリスト 阪本真由美、富田孝史、若崎正光、山野公寛、河野まゆ子、
川野四朗(南あわじ市副市長)

3 | 講演・パネルディスカッション内容

【主な意見】

- ・広域に被害が生じた場合、どこに支援拠点を置き、どのような支援を優先するか考えておく必要がある。(阪本)
- ・津波が44分で到達するとの想定だが、これを「44分もある」と誤解しないでほしい。地震の揺れや被害ですぐには逃げられない。(富田)
- ・昭和三陸地震の際、高台に移転していた集落は助かった。その次の世代になると、低地に住居を移したために今回被災してしまった。そこで市では、「ここは住めません」という場所を決めた。(若崎)
- ・海が見えないところに住んでいた人のほうが、居住者に占める割合が高かった。まさかここまでは来ないと思った人が少なからずいた。(山野)
- ・海水浴場の管理は、自治体が指定管理者に委託しているケース多い。管理者が変わると防災マニュアルが伝達されにくく、訓練が継続されていないことがある。(河野)
- ・被害想定では南あわじ市だけで約11000棟の家屋が倒壊する。これは県内倒壊家屋被害想定定の3割。シェルター方式など安価な方法で耐震化を促せる方法を検討している。(川野)
- ・スパコン「京」、「E-ディフェンス」などが集積する科学技術拠点を生かし、東日本大震災の教訓を併せ持った複合災害対策のモデル県になってほしい。(金田)

4 | 参加者数

250名

⑬「伝える・繋げる/in兵庫」

阪神・淡路大震災と東日本大震災の復興まちづくりフォーラム

東日本大震災の被災地で復興まちづくりに取り組む住民団体のリーダーや行政担当者を阪神・淡路大震災で復興まちづくりに取り組んだ地域に迎え、現地視察や報告会、意見交換会を開催した。

また、阪神・淡路大震災と東日本大震災の経験や復興状況を伝え、両大震災の教訓を共有し今後の備えとして将来へ繋げるフォーラムを開催した。

1 | 日時・場所

平成26年11月21日(金)～11月23日(日・祝)

【現地視察】

- ・11月21日(金) 淡路市富島地区
- ・11月22日(土) 神戸市新長田駅北地区、
神戸市六甲道駅北地区

【フォーラム】

- ・11月23日(日・祝) 10:00～15:30 兵庫県民会館パルテホール



2 | フォーラム内容

「『伝える・繋げる/in兵庫』阪神・淡路大震災と東日本大震災の復興まちづくりフォーラム」

10:00 開会 あいさつ

笠尾卓朗 震災20年復興まちづくりフォーラム実行委員会 委員長

10:05 基調講演「復興まちづくり支援の役割」

小森星児 神戸商科大学名誉教授・神戸復興塾塾長

〔主な内容〕 ・復興まちづくりに関する行政や専門家、住民の役割とは。

・まちづくりに関するソーシャルキャピタルの捉え方（地縁と知縁）など。

10:45 東日本復興まちづくり報告

針生 勉 宮城県名取市 閑上地区まちづくり協議会

亀谷 一子 宮城県気仙沼市 只越地区災害復興協議会

鈴木 博 宮城県気仙沼市 鹿折まちづくり協議会

鹿野 順一 岩手県釜石市 @リアスNPOサポートセンター

赤池 孝行 福島県いわき市3.11被災者を支援するいわき連絡協議会

〔主な内容〕 東日本大震災の被災地で復興まちづくりに取り組むまちづくり協議会など5団体が、現在の活動状況の報告を行った。

13:00 パネルディスカッション「伝える・繋げる/in兵庫」

コーディネーター 野崎隆一 神戸まちづくり研究所理事

パネリスト 小林郁雄 神戸まちづくり研究所理事長

磯辺康子 神戸新聞編集委員

田村太郎 ダイバーシティ研究所代表・復興庁復興推進参与

東末真紀 派遣支援員（神戸まちづくり研究所）

大町 勝 兵庫県まちづくり部長

東日本復興まちづくり報告の報告者（針生 勉、亀谷一子、鈴木 博）

〔主な内容〕 ・阪神・淡路大震災の経験は東日本でどのように活かされたか。

・2つの大震災の教訓から今後の地域防災の在り方や南海トラフ巨大地震への備え。

15:30 閉会

3 | 参加者数

109名

⑭ 震災20年・広域防災センター開設10年 広域防災センター実戦デモ

消防、警察、自衛隊等の災害応急活動要員等による実戦的なデモンストレーションを実施し、全県広域防災拠点の平時及び災害時の活動を紹介した。

1 | 日時・場所

平成26年11月30日(日) 10:00~14:00
兵庫県広域防災センター

2 | プログラム・内容

【北グラウンド】

- 10:00~10:10 開会式
- 10:00~14:00 各種団体ブース展示
- 10:10~10:25 消防、警察、自衛隊、兵庫県トラック協会等による車両実走デモ
(実動部隊等の車両17台、ヘリの機能や装備内容、災害時の活動の紹介)
- 10:25~11:00 東播磨・北播磨・淡路地域の各消防本部による救助訓練
(消防学校訓練棟を使った高所救助訓練)
- 10:45~14:00 起震車・煙避難体験
- 11:00~11:30 神戸市消防局・兵庫県災害医療センターによる消防・医療連携訓練
(狭隘閉鎖空間での救助救出活動訓練)
- 11:00~14:00 水消火器を使った学習体験
- 11:45~13:00 陸上自衛隊第3特科隊、兵庫県婦人防火クラブ連絡協議会による炊出訓練

【南グラウンド】

- 10:30~14:00 消防・警察・自衛隊による宿営施設・車両等展示
- 11:50~12:15 兵庫県警察広域緊急援助隊による救助訓練
(瓦礫訓練施設を使った、高所・中州からの救助を模した訓練)
- 13:10~13:30 陸上自衛隊第3特科隊、第8高射特科群による救助訓練
(瓦礫訓練施設を使った、瓦礫に埋もれた負傷者の捜索・救助・搬送訓練)

【ヘリポート】

- 10:30~14:00 ヘリコプター展示・消防防災航空隊紹介
- 13:15~13:30 兵庫県消防防災航空隊による救助訓練
(山岳救助を模した、要救助者の救出・搬送訓練)



【陸上競技場等】

- 10：30～14：00 スタンブラリー・備蓄倉庫見学
- 10：30～14：00 兵庫県トラック協会との連携による救援物資の搬出・搬入訓練
- 11：30～12：30 兵庫県立大学生、県立舞子高校生等の協力による救援物資の仕分け訓練
- 12：30～14：00 関西国際大学生による宿営サポート設備設置訓練（仮設トイレの設営・設置、導管設置訓練）



3 | 出展団体一覧

団体名	概 要
日本赤十字社兵庫県支部	仮設診療所展示、応急手当講習、救護用車両展示・乗車体験等
DMAT(災害派遣医療チーム)	資機材展示、活動内容のパネル展示
県立舞子高校 環境防災科	環境防災科の活動紹介、装置を使った耐震化の重要性デモ
NPO法人ひと・コネクト兵庫	東日本大震災被災地への想いをつなぐ展示
ばんぶーふぁみりー・神戸クロスロード研究会	カードゲームを使った防災学習
三木市消防本部	救急隊活動シミュレーション、救急自動車の展示等
消防学校救急救命士養成課程	AEDの展示、AEDを使った救命活動講習
阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター	阪神・淡路大震災のパネル展示、減災グッズチェックリストの配布等
NPO法人つみっ庫クラブ	大型ブロックを使った災害時プライベート空間作り、活動パネル展示等
NPO法人兵庫県防災士会	非常持出品重量体験、防災啓発ビデオ上映、防災パネル展示等
神戸地方气象台	雨量計・計測震度計の展示、地震・気象に関するパネル展示
NTT西日本兵庫支店	災害用伝言ダイヤルとWeb119の利用体験、ポータブル衛星車の展示等
兵庫県立大学学生復興支援団体LAN	東日本大震災支援活動パネル展示等
自衛隊兵庫地方協力本部	自衛隊の災害救助活動等のPR、ミニ制服試着等
イオンリテール(株)	防災関連用品の展示等
ひょうご防災ネット	ひょうご防災ネットの紹介、登録支援
三木市危機管理課	パネル・チラシ等を使った三木市内における防災情報の提供
北播磨県民局	県の防災施策、各種防災情報のパネル展示
フェニックス共済	フェニックス共済の紹介、パネル展示等



4 | 参加者数

4,550名

⑮ ひょうご水土里のふるさとフォーラム

県内各地域で農地や農業用水等地域資源を保全する活動のステップアップを図るとともに、「農」を守り、「地域ぐるみで防災・減災」等の取組みを紹介するフォーラムを開催した。



1 | 日時・場所

平成26年12月7日(日) 12:30~16:30
淡路夢舞台国際会議場メインホール

2 | テーマ

「明日へつながろう!! ひょうごの水土里～地域ぐるみでの防災・減災～」

3 | プログラム

- | | | |
|-------|--------|--|
| 12:30 | オープニング | 災害映像上映、千谷麒麟獅子舞公演 新温泉町 千谷麒麟獅子舞保存会 |
| 13:00 | セレモニー | 主 催 者 挨 拶: 西村康稔 兵庫県土地改良事業団体連合会会長
来 賓 挨 拶: 曾根則人 近畿農政局長
表彰式・講評: みどり豊かなふるさと大賞知事賞・委員長賞 |
| 13:40 | 事例発表 | 板井正和 網引町資源保全会代表 |
| 13:55 | 知事挨拶 | 井戸敏三知事 |
| 14:15 | 基調講演 | 浜 美枝 女優・農政ジャーナリスト |
| 15:00 | トークショー | 「ともに支え合い、災害から地域を守る」 |
| 16:20 | 呼びかけ | 淡路市立浦小学校児童（復旧・復興への感謝、誓い） |
| 16:30 | 閉会 | |

4 | 講演等の内容

ア 基調講演 「魅力ある地域づくりへ ～農・食・文化の継承～」

浜 美枝 女優・農政ジャーナリスト

前日に訪問した淡路島での手間が価値を生む農漁業、洪水被害軽減等の農業農村の多面的な役割、自らの田舎暮らし、美しい農村環境を子孫に残すことの大切さ等に対する話題・提言

イ トークショー 「ともに支え合い、災害から地域を守る」

ナビゲーター : 谷口英明 (サンテレビ)

コメンテーター: 三野 徹 (豊かなふるさとづくり推進委員会委員長)

災害を経験したそれぞれの立場で、農村地域における防災・減災力の向上及び農村と都市の共生と連携について意見交換

【話題提供者】

武田和義 (兵庫県OB)、菅原弘雅 (岡山県美作県民局農地農村計画課総括副参事)

阪神・淡路大震災の被災地で農地やため池等の復旧に取り組んだ当時の状況の振り返り

佐藤敏之 (仙台市若林区・三本塚集落資源保全隊庶務)

東日本大震災からの復旧・復興、地域活性化に向けて努力している取組み

谷川千加子（元神崎郡生活研究グループ連絡協議会会長）

阪神・淡路大震災で農村からの炊き出しによる被災地支援、その後の都市農村交流の取り組み

高田一民（淡路市・株式会社五斗長営農企画グループ）

豪雨災害を乗り越え、ほ場整備を進めるとともに、都市農村交流等による地域活性化の取り組み

富木 攻（加古川市・富木地区環境保全協議会会長）

田んぼダムやため池かいぼり等、地域が努力している防災・減災の先進的な取り組み

ウ イベントホールでの展示・公演

- ・農地・水保全活動の優良地区、阪神・淡路大震災等のパネル展
- ・兵庫及び宮城の農地・水活動組織等による物産展
- ・かまど炊き出し、おむすび・豚汁の振る舞い
- ・ひょうごのごはんの食べ比べ
- ・農村の伝統芸能公演（和太鼓、農村歌舞伎、人形浄瑠璃）
- ・自然環境学校（メダカのコタロー劇団等）等



エ 淡路島内の復旧・復興状況や地域活性化の取り組みの現地視察（翌日）

場所：北淡震災記念公園、淡路市五斗長集落、淡路市蔵谷池（かいぼり祭り）等

5 | 参加者数

3,000名

⑯ 兵庫県立歴史博物館特別企画展 阪神・淡路大震災20年 「災害と歴史遺産―被災文化財等レスキュー活動の20年―」

東日本大震災において被災・レスキューされた文化財をはじめ兵庫県内の資料を紹介する展覧会を開催し、阪神・淡路大震災以降活発化した被災文化財レスキュー活動の展開を紹介した。



1 | 日時・場所

平成27年1月10日(土)～3月15日(日)
兵庫県立歴史博物館

2 | 展示構成

ア 大津波被災文化財修復技術連携プロジェクト展「東日本大震災被災資料のレスキューと修復」

津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト実行委員会（事務局：岩手県立博物館）が企画。陸前高田市で被災し、岩手県立博物館等が応急処置・修復を行っている古文書・民俗資料・自然史標本を中心に展示した。

イ 県域での被災資料保全活動

平成7年阪神・淡路大震災、平成16年台風23号災害、平成21年台風9号関連豪雨災害での救出・修復資料を紹介。古文書・民具などを中心に展示した。

ウ 県域の災害史

文献・絵画資料等から、古代から近代までの県域を中心とした災害史を紹介した。

3 | 主な関連事業

ア 講演会「被災民俗文化財のレスキュー活動」

平成27年3月8日(日) 14:00～15:30
講師：日高真吾 国立民族学博物館准教授

イ 関連ワークショップ「海水損した文化財の安定化処理」

平成27年1月16日(金) 13:00～15:30
講師：赤沼英男 岩手県立博物館学芸第二課長
及川甲子 陸前高田市立博物館学芸員

ウ 水損資料修復ワークショップ「どこでも、誰でも、簡単にできる」

平成27年2月8日(日) 14:00～15:30
講師：吉原大志、加藤明恵 いずれも、歴史資料ネットワーク運営委員

エ 講座 れきはくアカデミー「災害と歴史遺産―特別企画展展示資料から―」

平成27年3月1日(日) 14:00～15:30
講師：前田 徹 兵庫県立歴史博物館学芸員



4 | 観覧者数

7,374名

⑰ 超巨大災害対策総合シンポジウム

世界の防災対策に震災の経験と教訓が果たした役割を討議するとともに、「国難」ともなる巨大災害への備えについて討議する2つのシンポジウムを開催した。

国際防災・人道支援フォーラム2015

- 1 兵庫行動枠組（HFA）10年の成果と2015年以降の防災枠組に向けて
～レジリエントな社会を目指す取組みの軌跡と展望～

1 | 日時・場所

平成27年1月17日（土）
14：00～17：30
神戸ポートピアホテル 大輪田の間



開会あいさつ

2 | プログラム

- 14：00～14：10 開会あいさつ 吉本知之（兵庫県副知事）
14：10～15：10 報告
15：10～15：40 特別講演「兵庫行動枠組の実施進捗とその後継枠組：第3回国連防災世界会議に向けて」
16：00～17：15 鼎談「レジリエントな社会を目指して」
17：15～17：30 総括・閉会あいさつ 五百旗頭 真（国際防災・人道支援協議会会長、
ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長）

3 | 報告・特別講演・鼎談内容

ア 報告

〔主な内容〕

- アレックス・ロス（WHO神戸センター所長）：
HFA達成を目指し、ローカルとグローバルの橋渡し、健康対策の支援、より良い復興をするためのビルドバックベター、レジリエンスの向上など、HFAの5つの優先行動に沿って世界の国々の取組みを推進。
- 名執 潔（アジア防災センター所長）：
世界共通の災害番号として、GLIDEを作成。世界の国々において統一的な整理ができる。宇宙機関と防災機関との連携を図る仕組みとして、センチネル・アジアの取組みを推進。メンバー国からの客員研究制度で人材の育成を実施。
- 加藤 寛（兵庫県こころのケアセンター長）：
心の回復は生活の再建が基礎になる。東日本大震災では多くの課題が提示された。
- 河内紳吾（国際復興支援プラットフォーム上席復興専門官）：
国、県、アジア防災センターの支援で組織を設立し、人材育成に取り組む。フィリピンの台風被災地調査を行い、地方政府の人材育成を行った。



イ 特別講演「兵庫行動枠組の実施進捗とその後の後継枠組： 第3回国連防災世界会議に向けて」

マルガレータ・ワルストロム

(国連事務総長特別代表 兼UNISDRヘッド)

〔主な内容〕

HFAは中間レビューにおいて備えの強化、ガバナンスの向上が多く国で見られている。早期警報、教育、学術的研究が重要。HFA後継枠組についてはまだ議論途中。



ウ 鼎談「レジリエントな社会を目指して」

マルガレータ・ワルストロム

(国連事務総長特別代表 兼UNISDRヘッド)

田中明彦 (国際協力機構 (JICA) 理事長)

河田恵昭 (人と防災未来センター長)

〔主な内容〕

JICAのHFA推進に向けた取組み、トルコ・ブルサ県の防災教育施設に関する報告があった。それらの防災関連団体がネットワークを構築し、協力して今後の世界的な防災対策を推進していく必要性について話し合われた。



シンポジウム(鼎談)の様子



総括・閉会あいさつ

4 | 参加者数

250名

2 メモリアル・コンファレンス・イン・神戸2015

1 日時・場所

平成27年1月20日(火)～1月21日(水)

10:00～17:30(両日とも) 神戸国際会議場 メインホール

2 プログラム

■ 1月20日(火)

- 10:00～10:05 開会の辞 新野幸次郎 神戸大学 名誉教授
 10:05～10:10 あいさつ 井戸敏三 兵庫県知事
 10:10～10:15 あいさつ 弘中喜通 読売新聞大阪本社 会長
 10:15～10:25 主旨説明 土岐憲三 立命館大学 教授
 10:25～11:25 基調講演1「災害情報」
 林 春男 京都大学 防災研究所 教授
 11:25～12:25 基調講演2「国難災害」
 河田恵昭 人と防災未来センター センター長
 13:30～17:30 分科会別討論1 ※第1分科会のみ13:00開始
 ◇基調報告(分科会担当者×2名)
 ◇パネルディスカッション



■ 1月21日(水)

- 10:00～12:00 分科会別討論2
 ◇自治体職員からの意見報告
 ◇パネルディスカッション
 13:00～13:45 特別講演1「共に学ぶ：日本と米国における大災害からの教訓」 デビッド・マメン
 13:45～14:30 特別講演2「グラウンドゼロにて、9.11を記念する」 クリフォード・チャニン
 14:45～15:45 各分科会の議論の報告(※幹事より報告)
 15:55～17:20 全体会議
 コーディネーター：牧 紀男、古谷禎一
 パネリスト：藤井 聡、藤野陽三、中島正愛、野口和彦、福和伸夫、丸谷浩明、小林郁雄
 17:20～17:30 閉会の辞 土岐憲三 立命館大学 教授

3 講演・報告内容

ア 基調講演1 「災害情報」

林 春男 京都大学 防災研究所 教授

〔主な内容〕

レジリエンスモデルは、ハザード、曝露量、脆弱性、それに加えて人間の活動の力、あるいは時間がもたらす力についても防災の枠の中に入れて考えていくべきこと等が示された。



イ 基調講演2 「国難災害」

河田恵昭 人と防災未来センター センター長

〔主な内容〕

減災社会の実現について、ネットワークを一つの強大なネットワークにせず、独立性の高いネットワークで多重分散型にする努力も必要であること等が示された。



ウ 特別講演1 「共に学ぶ:日本と米国における大災害からの教訓」

デビッド・マメン 元ニューヨーク行政研究所 所長

〔主な内容〕

創造的な復興のための4つの教訓として、①政府と自治体の関係が重要な役割を果たすこと、②復興の計画に市民が参加すべきであること、③復興を改善の機会として利用すること、④新たな課題に柔軟に順応させながら復興を進めていく必要があること等が示された。



エ 特別講演2 「グラウンドゼロにて、9.11を記念する」

クリフォード・チャニン ナショナル9.11メモリアル&ミュージアム 副館長

〔主な内容〕

9.11を後世に伝えるため、家族が喪に服し、記憶と歴史を学び、社会として儀式を行う場としてメモリアル博物館を整備した。記録や遺物、故人とその家族のストーリー、物語を継続して伝えていくことが残された者の責任であること等が示された。



オ 6分科会に分かれた議論

第1分科会：国土のグランドデザイン

- 委 員) 西村康稔 内閣府副大臣
藤井 聡 京都大学大学院工学研究科 教授
幹 事) 神田佑亮 京都大学大学院工学研究科 准教授
パネリスト) 家田 仁 東京大学・政策研究大学院大学 教授
大石久和 (一財)国土技術研究センター 国土政策研究所長
北本政行 国土交通省国土政策局 大臣官房審議官



第2分科会：ハード整備による被害抑止

- 委 員) 藤野陽三 横浜国立大学先端科学高等研究院 上級特別教授
中島正愛 京都大学防災研究所 教授
幹 事) 長江拓也 名古屋大学減災連携研究センター 准教授
パネリスト) 五十田博 京都大学生存圏研究所 教授
後藤芳顕 名古屋工業大学大学院工学研究科 教授
多田元英 大阪大学工学研究科 教授
小長井一男 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 教授
高橋良和 京都大学防災研究所 准教授
宮本裕司 大阪大学工学研究科 教授



第3分科会：情報マネジメントによる被害軽減

- 委 員) 林 春男 京都大学防災研究所 教授
野口和彦 横浜国立大学大学院環境情報研究院 教授
幹 事) 鈴木進吾 京都大学防災研究所 助教
パネリスト) 今井 武 本田技研工業(株)役員待遇参事
クリス・マッキントッシュ Esriマネージャー
賀澤秀人 グーグル(株)シニアエンジニアリングマネージャー
牧野友衛 Twitter Japan(株)メディア事業部執行役員



第4分科会：レジリエント社会と兵庫行動枠組(HFA)

- 委 員) 河田恵昭 人と防災未来センター センター長
福和伸夫 名古屋大学減災連携研究センター 教授
幹 事) 廣井 悠 名古屋大学減災連携研究センター 准教授
パネリスト) 中川和之 時事通信社解説委員
西川 智 (独法)水資源開発機構 理事
永松伸吾 関西大学社会安全学部 准教授
関谷直也 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 特任准教授



第5分科会：企業の事業継続と連携

- 委員) 丸谷浩明 東北大学災害科学国際研究所 教授
 指田朝久 東京海上日動リスクコンサルティング(株) 主席研究員
 渡辺研司 名古屋工業大学都市社会工学科 教授
 幹事) 紅谷昇平 神戸大学社会科学系教育研究府 特命准教授
 パネリスト) 伊藤 毅 (株)富士通総研執行役員ビジネスレジリエンス部長
 道満雅彦 オリバーソース(株)代表取締役社長
 萩原正五郎 (特非)事業継続推進機構 理事



第6分科会：復興とまちづくり

- 委員) 小林郁雄 兵庫県立大学緑環境景観マネジメント研究科 特任教授
 牧 紀男 京都大学防災研究所 教授
 幹事) 越山健治 関西大学社会安全学部 准教授
 パネリスト) 姥浦道生 東北大学災害科学国際研究所 准教授
 佐々木昌二 民間都市開発推進機構都市研究センター 副所長兼研究理事
 近藤民代 神戸大学大学院工学研究科 准教授



カ 全体討議

- (進行) 古谷禎一 読売新聞 解説委員
 牧 紀男 京都大学防災研究所 教授

〔主な内容〕

- ・「連携の必要性」と「縦割りの弊害」が共通の課題。復興という共通の目標に向けて、自らの専門分野に留まらず、互いの立場も考えながら、研究・防災対策に取り組む必要がある。
- ・メモリアル・コンファレンスは、初めの10年は分野を横につなぐということ、10～20年目は、世代間をつなぐ、他の地域に教訓を伝えていくということで取り組んだ。20～30年目は、いかにしてこの教訓を実際の社会で動かしていくかではないか。



4 参加者数

のべ650名、USTREAMの視聴440名

⑱ 水道災害シンポジウム

震災後の水道施設耐震化等の取組みを検証し、南海トラフ巨大地震に備えるための対策等をテーマとするシンポジウムを開催した。



1 | 日時・場所

平成27年1月22日(木) 13:00~16:30
23日(金) 9:00~12:00
兵庫県立淡路夢舞台国際会議場

2 | プログラム

22日(木)

- 13:00 開会 あいさつ
荒木一聡 兵庫県公営企業管理者
13:30 基調講演「来るべき巨大地震災害に備えるためにできること」
15:00 パネルディスカッション「水道の地震対策の取組とその課題」

23日(金)

- 9:00 研究事例発表(分科会1)
9:30 フォーラム(分科会2)「予想される水道施設の被災状況とそれに対する住民の備え」
11:45 総括 荒木一聡 兵庫県公営企業管理者
12:00 閉会

3 | 講演等内容

ア 基調講演「来るべき巨大地震災害に備えるためにできること」

鍛田泰子 神戸大学大学院工学研究科准教授

- 〔主な内容〕・水道施設の耐震化が特に小規模水道事業体で経営環境の悪化により進まない実態
・限られた財源の中で選択と集中による耐震化事業投資の重要性
・南海トラフ地震のような広域災害への備えなど

イ パネルディスカッション「水道の地震対策の取組とその課題」

水口和彦 神戸市水道局事業部長、平野公三 岩手県大槌町総務部長、
北野 正 和歌山県海南市水道部工務課長、山田健 兵庫県企業庁水道課長、
三原廣巳 神戸市長田区真野地区防災福祉コミュニティ本部長

- 〔主な内容〕・大槌町の経験では、被災後に事務処理量が爆発的に増えるにも係わらず、職員が出勤できない状況になる。そのことを踏まえて対応を考えておくべき
・阪神・淡路大震災の時に真野地区では、市民のコミュニティの強さと井戸の存在が火災の被害を最小限にとどめた。それらを維持していく必要がある
・南海トラフ地震への備えとしては、職員の確保と震災経験の継承、耐震化財源の確保が課題である。経営努力を前提に国庫補助金の充実などが必要ではないかなど

ウ 研究事例発表

事例発表1「進化してきた水道の地震対策」

松下 眞 神戸市水道局中部センター所長

阪神・淡路大震災からの水道復興に向けての緊急貯留システムなど様々な取組みとその評価について発表

事例発表2「東日本大震災の被災状況と現状」

松波幸也 石巻地方広域水道企業団技術次長

浄水場や管路等の施設被害の状況と津波浸水区域の復旧作業の難航、料金収入の激減など復興への課題がいまだに山積している状況を発表

事例発表3「南海トラフ地震により予想される水道災害とそのハード／ソフト対策」

小林健一 阪神水道企業団技術部長

南海トラフ地震の被害想定と施設の耐震化、津波による淀川塩水遡上対策、長期停電対策、相互応援などソフト対策についての計画を発表

エ フォーラム「予想される水道施設の被災状況とそれに対する住民の備え」

松田康孝 神戸市水道局経営企画部経営計画課

門脇正夫 阪神水道企業団技術部浄水計画課

廣島 晃 兵庫県企業庁水道課

三原廣巳 真野地区防災福祉コミュニティ本部長

- 〔主な内容〕
- ・市民が保有する井戸については、災害時に有効に利用できるよう登録制度が活用可能
 - ・災害時の応援給水において水道事業者と自衛隊との連携が必要
 - ・水道施設への異物混入などテロ対策については、厳重な警備体制とともに魚を使ったモニター装置により毒物等の早期感知に努めている
 - ・フォーラムに参加して市民も断水に備えて自衛手段を講じる必要があることが理解できたなど

オ 総括メッセージ

- ・耐震化推進をするための水道事業者の経営努力と政府の国庫補助制度の充実
- ・耐震化事業の効率的かつ効果的な実施
- ・広域連携の強化
- ・市民の参画と協働
- ・震災経験の継承

4 参加者数

1,000名

⑬ 災害時要援護者サポートミーティング

災害時要援護者に関する取組みを推進するため、支援者の確保や個人情報の取扱等諸課題を市町域を超えて共有し解決に向けて話し合うつどいを開催した。

1 | 日時・場所

平成27年2月11日(水・祝) 10:00~12:30
ホテル北野ホテルプラザ六甲荘

2 | プログラム

- 10:00 開会 あいさつ
災害時要援護者サポートミーティング実行委員会委員長 杉本明文(兵庫県防災監)
- 10:05 学識者による基調講演
- 10:30 地域からの実践報告
- 11:35 パネルディスカッション



3 | 講演・報告内容

ア 学識者による基調講演 松原一郎(関西大学社会学部教授)

[主な内容]

- ・社会的孤立は、誰にでもどんな時点でも起こりうる。いかに人を孤立、排除せず、社会で見守るか。地域コミュニティのあり方の再考が必要である
- ・平時の地域福祉が災害時の大きな役目を果たす。平時からできず、災害時だけできるというのはありえない
- ・人間の安全保障、生活の安心安全をいかに自分たちの身の回りからできるか。それらが発災時に大きく役立つ

イ 実践報告

○神戸市兵庫区地域自立支援協議会 防災部会長 泥 可久

[主な内容]・障害者も健常者も勇気を出して、共にふれあうということから理解が広がる
・地域の方に自分の存在を配信する、顔と顔の見える関係を築くことが必要

○神戸市兵庫区東山地区防災福祉コミュニティ 委員長 吾妻義信

[主な内容]・地区の課題を地域の多くの人に認識してもらい、多くの人で支えあう地域を作ることが、防災をはじめ、防犯や、高齢者を狙った詐欺などを防ぐことにもつながる

○伊丹市有岡小学校区地域福祉ネット会議 委員長 吉井 正 副委員長 福田知子

[主な内容]・災害時に助けるとは断言はできないが、避難所でそれぞれの人がそれぞれの役割で助け合い、気配りしておこうと思ひ起こせる人がいるよう、つながりあってほしい

○養父市大屋町筏区福祉連絡会 福祉委員 中尾和美

[主な内容]・全員が見守り、見守られている意識をもってほしい
・見守り意識が災害時に生かされ、命を守り、減災につながる。顔を見知っておくことが、被害を少なくする

ウ パネルディスカッション コーディネーター：松原一郎(関西大学社会学部教授)

パネリスト：蟻坂 隆(石巻市民生委員児童委員)

- ・平時は膝をつき合わせたご近所づきあい、地域の防災学習と防災教育が必要
- ・要援護者自身が準備を怠らないこと

堀 茂(神戸市兵庫区役所保健福祉部長)

- ・住民同士のつながり合い、助け合いの精神、向こう三軒両隣という精神、地域のリーダーの意識の高さがあって、呼びかけに呼応する地域住民の協力体制、要援護者側からの自らの提案、よびかけ、活動のマッチングが重要

山崎栄一(関西大学社会安全学部准教授)

- ・地域が高齢者や障害者と交流するのが重要。名簿に記録するのではなく、みんながその人を記憶しておくことが重要
- ・小さな規模でのワークショップを地道に続けていくことが重要。地域がそれぞれのステップごとに応じて課題を見つけて、少しずつ前進していくことが重要

4 | 参加者数

200名

②0 復興制度等提言事業

阪神・淡路大震災20年を機に、同大震災と東日本大震災からの復興への取組みの課題と成果について、経過年数、被害様相、発生時の社会経済情勢の違いを踏まえつつ、「復興推進を支える仕組み」から「震災の経験と教訓の継承」までの12分野にわたり検証を行い、今後の東日本大震災被災地への支援と南海トラフ地震をはじめ大規模災害への備えに活用できる提言をとりまとめた。

1 調査経緯

平成26年6～8月 資料収集、現地ヒアリング
平成26年9～12月 分野ごとに調査部会で調査検討
部会：健康福祉部会(健康福祉部)、社会・文化部会(企画県民部)、教育部会(教育委員会)、産業・雇用部会(産業労働部)、農政環境部会(農政環境部)、まちづくり部会(県土整備部)、防災部会(防災局)、総括部会(防災局)
平成27年2月27日 復興フォローアップ委員会開催
平成27年3月30日 復興フォローアップフォーラム開催
平成27年3～5月 報告書とりまとめ
平成27年6月1日 公表

2 調査分野(12分野)

①復興推進を支える仕組みづくり

復興体制、復興財政、復興基金、復興法制、復興特区制度、義援金、復興計画

②迅速な被災者救助

災害時の消防活動、災害医療体制の充実、消防防災ヘリコプター運用の高度化、防災情報システムの整備、避難所運営と生活環境改善、緊急物資の備蓄と円滑な供給、住民自ら行う減災活動の実践的な取組みの推進、孤立への備え、帰宅困難者対策

③生活拠点となる住まいの確保

応急危険度判定と被害認定、応急仮設住宅の整備、災害復興公営住宅の整備、住宅再建、二重ローン対策、住まい等の耐震化

④被災者に対するきめ細やかな生活支援

要援護者の生活支援、健康づくり、こころのケア、生きがいつくり、仮設住宅及び災害復興公営住宅における高齢者等の見守り体制づくり、ふれあいセンター・コミュニティプラザの設置、公的な生活支援資金、県外避難者の支援、被災動物の保護

⑤多様な主体の参画と協働による被災者支援

ボランティア・NPOの活動促進、多様な主体の協働促進、被災者と行政をつなぐ第三者機関、地域コミュニティの再構築、家族のきずなと地域の支え、復興を支える芸術文化活動

⑥地域経済の復旧・復興としごとの確保

中小企業・地場産業の復興、地域商業の復興、企業の危機管理、被災地の観光振興、被災地の雇用確保

⑦農林水産業にかかわる被災者の再建支援

⑧膨大な災害廃棄物の迅速な処理

⑨災害に強いまちづくり

復興に向けた都市計画、地域の実情に応じた市街地整備事業の柔軟な展開、住民主体の復興まちづくり、今後の大規模災害における復興まちづくりへの備え

⑩新たな防災教育の推進

防災教育の推進、災害時の学校運営、子ども達の心のケア対策等の推進、スポーツを通じた地域づくり、被災文化財の保存、活用

⑪防災の広域連携の推進

広域連携体制の構築、住民の広域連携体制の構築、広域防災拠点のネットワーク化、国際防災協力

⑫震災の経験と教訓の継承

震災の経験と教訓の研究・発信、震災の経験と教訓の継承・活用

3 復興フォローアップ委員に対する意見聴取（復興フォローアップ委員会）

平成27年2月27日（金）

ラッセホール会議室（神戸市中央区）



4 復興フォローアップフォーラムの開催

〔日時場所〕 平成27年3月30日（月）兵庫県公館大会議室

〔参加者数〕 約250名

〔内 容〕

・阪神・淡路大震災20年感謝状贈呈式

震災20年目の節目にあたり、これまでの創造的復興の過程やその後の災害において支援、防災・減災活動などに取り組み、安全・安心な社会づくりに貢献してこられた団体・個人に対し、ひょうご安全の日推進県民会議会長（知事）から感謝状を贈呈した。

（148団体・個人）

・基調講演「阪神淡路20年～経験と教訓を今後に活かすために」

（講師）室崎益輝 兵庫県立大学防災教育センター長

災害は、その時代やその社会の持っている歪みや間違いを、時間を先取りする形で顕在化する。復興では、その顕在化した歪みに向き合い、改善を図ることが要求される。阪神淡路の復興の前半10年は「建て直し」であり、住宅再建支援の各制度やまちづくり協議会などの大きな成果を生んだ。後半10年は「世直し」であり、市民社会の形成や高齢化社会の見守りなどでは大きな成果があった。我々は学んだ教訓をそのまま伝えるよりは、その教訓を生かして、すばらしい社会を作ったことを見本として伝えていく伝え方が重要である。

・パネルディスカッション「阪神淡路と東日本、それぞれの復興の取組みから見えること」

(コーディネーター) 室崎益輝 兵庫県立大学防災教育センター長

(パネリスト) 磯辺康子 神戸新聞社報道部 専門編集委員

国と被災地の温度差の問題があり、大規模な災害では、被災したその場にいる者がまずはなんとかして行かないといけないということを強く感じた。また、20年の経過のなかで他の地域でも新しい取組みが進んでいる。兵庫が遅れているのではと思うところもある。常に新しい取組みを学んでいく必要がある。

(パネリスト) 加藤恵正 兵庫県立大学政策科学研究所長・教授

阪神・淡路大震災の復興過程で、エンタープライズゾーンの提案を機に、被災地にイノベーションの新しい世界を切り開いた。また、コミュニティビジネスと呼ばれる第三の領域が生まれた。いずれにせよ制度を柔軟に変えていくことが、復興を加速させていくことになる。

(パネリスト) 野崎隆一 神戸まちづくり研究所理事兼事務局長

阪神淡路では市民社会をどうつくるかができなかった。行政が提案する施策を待っているのではなく、市民が復興計画をつくっていく、東北の被災地を見て感じるところである。伝統的な地域組織も閉鎖的な面もある、もっと幅広い市民社会のとらえ方が必要である。

(パネリスト) 松原一郎 関西大学社会学部教授

高齢者の見守りは、結果として日本の高齢化社会を先取りする形になった。復興対策に被災者の生活支援が、常にあるべきものと一つとして東日本でも相当取り入れられた。



② 阪神・淡路大震災被災地による「兵庫行動枠組」の評価・検証

阪神・淡路大震災20年にあたり、国連国際防災戦略（UNISDR）事務局が定めた「兵庫行動枠組（HFA）」を踏まえた兵庫県の取組みについての評価と検証を行うとともに、国際機関等の協力を得て「兵庫県HFA研究会」設置し、HFAを更に発展させる防災・減災の先導的な取組みやHFAの後継枠組を推進する取組みを提言としてまとめ、第3回国連防災世界会議（平成27年3月仙台）等で発信した。

1 兵庫県HFA研究会の開催

- HFAをさらに発展させる先導的な取組みやHFAの後継枠組を推進する取組みをとりまとめた「阪神・淡路大震災20年 兵庫からの提言」を作成
- 概要版パンフレット（日英）を1.17関連イベントで配布

〔委員〕

河田 恵昭 人と防災未来センター長（委員長）

清原 桂子 神戸学院大学現代社会学部教授

齋藤 富雄 県国際交流協会理事長

阪本真由美 名古屋大学減災連携研究センター特任准教授

佐々木克樹 内閣府官房審議官（防災担当）

<H26.10月から兵谷 芳康>

名執 潔 アジア防災センター所長

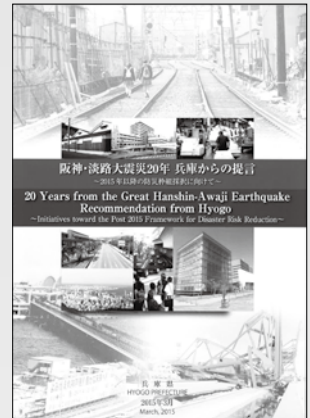
西川 智 独立行政法人水資源機構理事（UNISDRアドバイザーコミッティーメンバー）

山本あい子 兵庫県立大学大学院看護学研究科教授・地域ケア開発研究所長

〔アドバイザー〕

国連国際防災戦略事務局（UNISDR）駐日事務所、国連人道問題調整事務所（OCHA）神戸事務所、独立行政法人国際協力機構（JICA）関西国際センター、国際防災復興協力機構（IRP）

〔開催経過〕第1回（5/29）、第2回（9/2）、第3回（11/21）、第4回（最終12/3）開催



2 「兵庫行動枠組」の評価・検証

UNISDRが定めた41項目の評価指標に基づき、兵庫県の震災後20年の取組みを自己評価

3 第3回国連防災世界会議での成果発信

平成27年3月14日から18日にかけて仙台市で開催された第3回国連防災世界会議に、井戸知事、杉本防災監、兵庫県HFA研究会委員が出席し、阪神・淡路大震災20年にわたる復興の取組みから得た教訓を発信

〔本体会合〕

①閣僚級ラウンドテーブル

「都市部における災害リスク軽減」

〔登壇者〕井戸 敏三 兵庫県知事

〔日時・場所〕平成27年3月16日（月） 15:00～18:00

仙台国際センター

〔主な発信内容〕

「創造的復興」の重要性や、ボランティアや住民、専門家が行政と連携する生活復興の仕組みの必要性を強調。また、人と防災未来センターのような施設や、地方自治体レベルの国際防災協力の有効性についても提言。

今後、ソフト、ハード両面で都市部の災害リスク軽減を図っていくことを表明。



②ワーキングセッション

「減災文化構築のための教育と知識」

〔登壇者〕井戸 敏三 兵庫県知事

〔日時・場所〕平成27年3月16日(月) 10:00～11:30 仙台国際センター

〔主な発信内容〕

学校における教育の重要性、実戦的な防災訓練の必要性、また、住民の避難訓練の実施などによる地域防災力の強化、災害時要援護者対策の重要性を強調。

将来の取組みとして、地域防災の拠点としての学校機能の向上（井戸の設置による水の確保など）などを推進することを紹介。

③チャンピオンズミーティング

〔登壇者〕井戸 敏三 兵庫県知事

〔日時・場所〕平成27年3月17日(火) 10:00～12:00 仙台国際センター

〔主な発信内容〕

創造的復興の取組み、地方自治体による国際防災協力の取組み、事前の備えや復旧・復興段階における地方自治体の取組みを紹介。

また、学校や地域における防災学習と実戦的な防災訓練の重要性などを指摘。

〔パブリック・フォーラム〕

①総合フォーラム

「我が国防災の展望：究極の防災対策を目指して～兵庫から仙台、そして未来へ～」

〔登壇者〕杉本 明文 兵庫県防災監

〔日時・場所〕平成27年3月14日(土) 13:30～15:00

東北大学川内萩ホール

〔主催〕内閣府

〔主な発信内容〕

「創造的復興」など、阪神・淡路大震災20年の兵庫の復旧・復興の取組みを2015年以降の防災枠組案の優先行動に基づき紹介。

特に、国際防災関係機関と連携した研修員の受け入れ、被災地支援、義援金プロジェクトの実施など、地方自治体による国際防災協力の有効性を強調。



「激甚化する巨大災害にどう立ち向かうか～命を守り、社会経済の壊滅的被害を回避するために～」

〔登壇者〕河田恵昭 人と防災未来センター長

〔日時・場所〕平成27年3月15日(日) 16:30～18:30 東北大学川内萩ホール

〔主催〕国土交通省、公益財団法人土木学会、水と災害ハイレベル・パネル

「東日本大震災からの復興の現状と取組～“新しい東北”の創造～」

〔登壇者〕清原桂子 神戸学院大学社会学部教授

〔日時・場所〕平成27年3月15日(日) 13:30～15:30 東北大学川内萩ホール

〔主催〕復興庁

「天災は忘れたころにやってくる～BOSAIでつながる日本と世界・防災国際協力～」

〔登壇者〕齋藤富雄 県国際交流協会理事長、西川智 独立行政法人水資源機構理事

〔日時・場所〕平成27年3月17日(火) 10:00～12:00 東北大学川内萩ホール

〔主催〕独立行政法人 国際協力機構（JICA）

②関係機関等によるシンポジウム・セミナー

アジア防災会議2015

ーアジアにおける兵庫行動枠組(HFA)の実施成果の確認とポストHFAの核となる行動の特定ー

〔日 時・場 所〕平成27年3月15日(日) 13:00~11:30

仙台国際センター

〔主 催〕日本政府(内閣府)、
国連国際防災戦略事務局(UNISDR)、
アジア防災センター(ADRC)

〔主な発信内容〕

阪神・淡路大震災20年の「創造的復興」や国際防災協力の取組みについて紹介。

計画的な復興、復興プロセスへの住民参加の重要性や災害に強いまちづくり、地域の防災力の向上など復興の取組みを防災・減災に生かすことの重要性について提言。

また、地方自治体間での災害の経験と教訓の共有など、地方自治体による国際防災協力の役割について強調。



「災害支援を行った世界の看護師からの学びー次世代へのメッセージ」

〔登 壇 者〕山本あい子兵庫県立大学大学院看護学研究科教授・地域ケア開発研究所長

〔日 時・場 所〕平成27年3月15日(日) 13:30~15:50 仙台市情報・産業プラザ(アエル内)

〔主 催〕世界災害看護学会、国際看護師協会

4 | 2015年以降の防災枠組に対する兵庫県からの提言内容

①創造的復興の推進

「創造的復興」の観点を打ち出し、より良い復興を実現するしくみを提示する。また、「創造的復興」を優先行動の一つとして位置づける。

②地方自治体による国際防災協力の推進

兵庫県の「義援金プロジェクト」の経験や自治体間の防災・減災の学び合いの重要性などを踏まえ、地方自治体による国際防災協力の役割を強調する。

③自治体レベルの防災力の強化

最も住民に近い位置にあって、災害直後の被災者救助だけでなく、事前の備えや復旧復興段階においても重要な役割を担う地方自治体による防災の取組みの重要性を強調する。

④防災教育・学習の重視

学校教育のカリキュラムのなかに防災教育を組み込み、防災教育・学習の重要性や、コミュニティ防災の拠点としての学校の役割を明確にする。

⑤災害教訓の整理・発信

被害の原因と対策の効果を検証し、災害の教訓を次の災害に活かす活動を防災・減災対策の重要な要素として位置づける。

5 | 参加者数

約6,500名(第3回国連防災世界会議総参加者数)

② 震災20年ボランティア活動調査検証・促進事業

「ボランティア元年」と言われた阪神・淡路大震災発生の日から平成7年から20年を迎えるにあたり、これまでのボランティア活動を調査・検証するとともに、活動への参加を促進するための広報事業を実施した。

1 ひょうご震災20年ボランティア活動検証

(1) 検証委員会の設置・開催(全3回)

[委 員] 室崎 益輝 ひょうごボランティアプラザ所長
田端 和彦 兵庫大学生涯福祉学部教授
中村 順子 (特非)コミュニティ・サポートセンター神戸理事長
野崎 隆一 (特非)神戸まちづくり研究所理事・事務局長
久保 幸一 日本政策金融公庫国民生活事業本部南近畿地区統轄室長
永守 研吾 県社会福祉協議会常務理事
土井 敏 神戸市社会福祉協議会広報交流部長
柳瀬 厚子 兵庫県企画県民部県民生活局長

(2) 報告書の内容 [<http://web.pref.hyogo.lg.jp/kk13/kensyouthoukokusyo/kensyouthoukokusyo.html>]

- ①ボランティア活動の変遷 ②アンケート調査からみたボランティア活動の現状
③ボランティア活動の課題と今後の方向性 ④有識者及び検証委員会委員からのメッセージ
※②③については、分野別に整理〔人材、資金、他機関との連携、情報発信、災害時のボランティア活動〕

2 県民ボランティア活動実態調査

県民ボランティア活動を行っている団体・グループの実態や課題、ニーズ等を把握し、今後の県民ボランティア活動の支援方策を検討するための調査を実施した。

①調査委員会の設置・開催(全4回)

[委 員] 宮垣 元 慶應義塾大学総合政策学部教授
山口 一史 (特非)ひょうご・まち・くらし研究所常務理事
江見 淳 生活協同組合コープこうべ地域活動推進部統括部長
松村 吉隆 (福)神戸市社会福祉協議会広報交流部広報交流課長

②調査方法

県内NPO法人及び市区町社会福祉協議会への登録団体から無作為抽出した5,000団体に調査票を郵送(有効回答:2,642団体 有効回答率:52.8%)

③調査報告書の内容 [http://www.hyogo-vplaza.jp/enterprise/5_tyousa/jittai/jittai_H26.html]

〔調査の概要、全体を通じての分析結果、単純集計結果のまとめ、調査の結果〕

3 ひょうご震災20年ボランティア活動フォーラム

阪神・淡路大震災から20年のボランティア活動の歩みを振り返り、NPO法人や地域活動団体等の多様な主体の交流を進めるためのフォーラムを開催した。

[開 催 日] 平成27年1月16日(金)

[場 所] 神戸クリスタルタワー3階クリスタルホール

[参 加 者] NPO法人や地域活動団体の代表など 約200名

[内 容]

①基調講演「震災からの復興が紡いだ兵庫のボランティア活動」

[講 師] 室崎 益輝 ひょうごボランティアプラザ所長

②パネルディスカッション

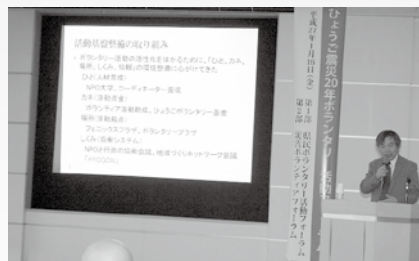
[コーディネーター] 室崎 益輝 ひょうごボランティアプラザ所長

[パネリスト] 宮垣 元 慶應義塾大学教授

野崎 隆一 ひょうご市民活動推進協議会(HYOGON)代表

中村 順子 認定特定非営利活動法人コミュニティ・サポートセンター神戸理事長

小倉 譲 特定非営利活動法人 しゃらく代表理事



② ひょうご女性フォーラム「防災・減災、復興に女性の力を」

阪神・淡路大震災から20年を迎えるにあたり、男女共同参画の視点を取り入れた今後の復興支援や防災・減災対策等について考えるため、ひょうご女性フォーラムを開催した。

1 | 日時・場所

平成26年11月2日(日) 13:30~16:50
神戸クリスタルタワークリスタルホール

2 | プログラム

- 13:30 開会あいさつ 清原 桂子 「防災・減災、復興に女性の力を」実行委員会委員長
金澤 和夫 兵庫県副知事
- 13:40 ひょうご女性未来・縹(はなだ)賞表彰式
- 14:00 講演 武川 恵子 内閣府男女共同参画局長
- 14:30 取組報告 川村 貴子 兵庫県立男女共同参画センター所長
- 14:40 地域活動報告 高橋 裕子 パニラシティ
森屋 裕子 尼崎市女性センター所長
- 15:00 パネルディスカッション



3 | 講演・報告内容

ア 講演「男女共同参画の視点からの防災・復興の取組指針について」

武川 恵子 内閣府男女共同参画局長

〔主な内容〕東日本大震災の経験から見てきた男女共同参画に係る課題、震災後の政府の動き、防災基本計画の修正、災害対策基本法の改正、取組指針の概要と公表後の主な取組みなど

イ 取組報告「防災・減災、復興に向けた兵庫県立男女共同参画センター取組等」

川村 貴子 兵庫県立男女共同参画センター所長

〔主な内容〕阪神・淡路大震災直後の相談業務や情報提供、就業支援等の取組みと、東日本大震災以降の男女共同参画の視点を取り入れた防災・減災の取組み等の報告

ウ パネルディスカッション「防災・減災、復興に女性の力を」

清原 桂子 ひょうご女性未来会議代表、神戸学院大学教授

浅野 幸子 早稲田大学「地域社会と危機管理研究所」招聘研究員

田端八重子 もりおか女性センター センター長

永田 萌 絵本作家

中野 則子 公益社団法人兵庫県看護協会会長

中村 順子 認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸理事長

- 〔主な内容〕
- ・今後の防災・減災の仕組みや組織づくりには、女性の生活者としての視点、突破力、行動力、柔軟性と、それらを活かすためのマネジメント力が必要
 - ・地域を担う女性リーダーの養成と活躍できる場・組織づくり、女性相談員の育成、平時からのネットワークの構築、住民参画によるマニュアルづくり、防災訓練の見直しの重要性など



4 | その他

「防災・減災、復興に女性の力を」実行委員会では、ひょうご女性フォーラムのほか、9月7日・12月7日に豊岡市・尼崎市で地域フォーラムを開催。それらの開催結果をもとに『兵庫の女性たちから「10の提言」』を作成し、地域フォーラムの取組みから生まれた防災・減災絵本『約束のあした』とともに、国内外に広く発信。

5 | 参加者数

1,325名

②4 1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」10周年記念事業

1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」の受賞校の取組みを整理し、防災教育のモデルとして発信するとともに、全国の学校や地域の防災教育の取組みを支援するためのフォーラム等を開催した。

1 防災教育全国キャラバン

ア 実施時期 平成26年4月～平成27年3月

イ 実施内容

- ・関係省庁への表敬訪問（平成26年10月10日（金））
相手方 内閣府参事官（事業推進担当）
訪問者 河田選考委員長、事務局（兵庫県、毎日新聞社、さくらネット）
- ・全国教育委員会、学校等への訪問
教育委員会、地域団体、防災教育に取り組む学校、各防災研修会での紹介イベント等での展示協力、応募の呼びかけ
マスコミと連携した事例紹介・広報発信
- ・学生や地域を巻き込んだぼうさい甲子園（防災教育）広報活動

ウ 実施実績 19都道府県 96件

2 1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」10周年記念フォーラム

ア 事前合宿の実施

〔実施日時・場所〕

平成26年11月1日（土）～2日（日） 明石市青少年の家

〔主な内容〕

- ・「防災教育」をテーマにしたトークセッション
- ・「防災未来宣言」作成のワークショップ 等

〔参加者数〕

歴代受賞校・団体 26名、講師2名 ほか



イ 1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」10周年記念フォーラムの開催

〔開催日時・場所〕

平成26年11月3日（月・祝）10:00～13:00

神戸学院大学

〔プログラム〕

- ・開会挨拶 河田 恵昭 人と防災未来センター長
 - ・子どもたちの発表「ぼうさい甲子園から未来を考える」
歴代受賞校の卒業生による防災教育の取組み発表
 - ・朗読「稲むらの火」
平野 啓子 語り部・かたりすと
 - ・“ぼうさい未来”メッセージ
「子どもたちに向けたメッセージ」
室崎 益輝 兵庫県立大学防災教育センター長
 - ・パネルディスカッション「防災教育のこれまでとこれから」
防災教育のこれまでと今後の可能性について、防災教育に取り組む教諭が討論
パネリスト 井口 道子 宮古市立鋤ヶ崎小学校教諭
小西 正志 徳島市津田中学校教諭
瀧川 猛 千葉県立東金特別支援学校教諭
コーディネーター 諏訪 清二 兵庫県立松陽高等学校教諭
- ※井口教諭と小西教諭は1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」受賞時の学校名
- ・子どもたちによる“ぼうさい未来”宣言の発表・発信



阪神・淡路大震災から20年を迎えます。日本はその後も様々な災害を経験し、多くの尊い生命を失いました。人々の苦しみや淋しさ、現地にある真実、地域ごとに語り継ぐことの大切さ。それらを共有し、広めていくため、私たちは1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」を通じてつながり、発信してきました。その中で東日本大震災が起こり、私たちは、改めて人とつながることのありがたさを感じることができました。ここで私たちは未来に向けて宣言します。

- 1 あたたかいご飯、ゆっくり眠れる家に感謝し、“あたりまえ”を大切にします。
- 2 自分事として災害の事実と向き合い、伝えます。
- 3 人、仲間、地域、社会、そして自然。かけがえのないものとつながり、深めていきます。
- 4 生きる意味を考え、自ら判断する力を育み、共に動き続けます。
- 5 もしもの時も、「絶対に生きる」強い意志を持ち、“いのち”を守り抜きます。
- 6 自分のいのち、仲間のいのち、家族のいのちを大切にする防災活動を広げます。

平成26年11月3日

1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」同窓生一同

〔会場展示〕

「命の一本桜」（アトリエ太陽の子）

〔参加者数〕 250名



3 | 10周年記念誌の発行

- ・1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」10年の歩み
- ・歴代受賞者へのインタビュー 等
- ・優れた防災教育の取組み紹介

4 1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」

阪神・淡路大震災を通して学んだ自然の脅威や生命の尊さ、共生の大切さを考える「防災教育」を推進するため、全国の学校や地域において子どもや学生が主体的に取り組む優れた防災活動を顕彰した。

「ぼうさい大賞」「優秀賞」「奨励賞」に加え、被災の経験と教訓から生まれた活動を対象とした「はばタン賞」、数年に渡り継続的に優れた取組みを応募している学校等を対象とした「継続こそ力賞」、過去に応募がなかった地域・分野での先導的な取組みを対象とした「フロンティア賞」、優れた取組みを行っている応募校を対象とした「新人賞」等を選考した。

ア 募集

平成26年6月17日(火)～9月30日(火)

応募総数 131件 (小学生部門34件、中学生38件、高校生43件、大学生16件)

イ 選考委員会

日 程：平成26年11月21日(金) 場所：人と防災未来センター

〈委員〉◎は委員長

氏 名	所 属 ・ 役 職
石井 布紀子	特定非営利活動法人さくらネット代表理事
内田 貞雄	公益財団法人ひょうご震災記念21世紀研究機構副理事長
大路 正浩	文部科学省スポーツ・青少年局学校健康教育課長
◎河田 恵昭	人と防災未来センター長
杉本 明文	兵庫県防災監
諏訪 清二	兵庫県立松陽高等学校教諭
福井 良子	NPO法人グローバルプロジェクト推進機構理事長
四日市 正俊	内閣府政策統括官(防災担当)付参事官(事業推進担当)
小菅 洋人	毎日新聞大阪本社編集局長

〈選考件数〉()内は兵庫県内の団体

グランプリ	1件	津波ぼうさい賞	3件
ぼうさい大賞	2件	教科アイデア賞	2件
優秀賞	4件	継続こそ力賞	2件(アトリエ太陽の子)
奨励賞	5件	フロンティア賞	3件(県立神戸聴覚特別支援学校)
はばタン賞	4件(県立淡路高等学校)	新人賞	1件
だいじょうぶ賞	2件		

ウ 表彰・発表会

日 程：平成27年1月11日(日) 場所：兵庫県公館

エ 展示等

ひょうご安全の日のつどい2015「子ども防災ひろば」で取組みを紹介するパネル等を展示した。

オ 選考結果

部門賞

1 小学生の部 (応募数: 34校)

区 分	学校・団体名	活 動 内 容
ぼうさい大賞	半田市立亀崎小学校 (愛知県)	4~6年生の児童有志で「亀っ子防災隊」を組織し、消防操法大会や地区行事への参加や防災センターの見学等を自主的に実施
優秀賞	高浜市立翼小学校 (愛知県)	児童が公民館の夏祭りに出店し、そこで得た利益や募金を活用して児童自らが検討した学校の東海大地震への備えを充実
奨励賞	水の自遊人しんすいせんたい アカザ隊(山口県)	子ども達が観光客になりきり、ぼうさいと観光が一体になった「ぼうさい・観光マップ」を作成

2 中学生の部 (応募数: 38校)

区 分	学校・団体名	活 動 内 容
グランプリ (ぼうさい大賞)	田辺市立新庄中学校 (和歌山県)	平成13年度から毎週1時間、グループごとに9教科に関連づけた防災学習を行う「新庄地震学」を実施し、教科と関連付けた地震や津波の災害学習、地域や小学校との交流を実施
優秀賞	徳島市津田中学校 防災講座(徳島県)	避難場所の有効な利用方法について住民の意見を吸い上げるため、生徒が600軒の戸別訪問による防災意識調査を実施、集計結果をまとめて町内50の事業所で掲示
奨励賞	能登町立小木中学校 (石川県)	一人では避難訓練に参加できない高齢者対象のお助け隊を結成し、車いすを準備して一緒に訓練に参加

3 高校生の部 (応募数: 43校)

区 分	学校・団体名	活 動 内 容
ぼうさい大賞	岩手県立宮古工業高等学校 機械科 津波模型班 (岩手県)	地域に応じた模型を製作し、各地で命を守るための津波の実演や出前授業を実施し、津波模型班設立から10年、実演回数100回を達成
優秀賞	高知県立須崎工業高等学校 (高知県)	津波に関する紙芝居や緊急避難場所における夜間の施設案内灯、坂道に対応できる車いすへの改良等、防災に関するものづくりを実施
奨励賞	秋田県立仁賀保高等学校 BV会&Be助人(秋田県)	防災教室や市民の参加も募った宿泊型防災訓練の実施等、地域防災力向上への取組みの実施、及び市における自主防災組織の認定
	千葉県立東金特別支援学校 (千葉県)	正しい知識を楽しく身体で覚えられるよう開発した「あたりまえ防災」の取組みの実施

4 大学生の部 (応募数: 16校)

区 分	学校・団体名	活 動 内 容
優秀賞	静岡大学教育学部 藤井基貴研究室(静岡県)	特別支援学校と連携して災害時要援護者を対象とした教材、授業開発を行い、実践・普及に努めた
奨励賞	日本赤十字北海道看護大学 災害beatS研究会(北海道)	厳冬期に体育館内に仮想避難所を設営し、積雪寒冷地の課題を探るとともに、暴風雪で車に閉じ込められた時にいのちを守る技術と必要な装備を検証

特別賞

1 はばタン賞

阪神・淡路大震災以降の被害の大きな被災地にエールを送るため、これら地域を対象に被災の経験と教訓から生まれた活動に対し授与。

区 分	学校・団体名	活 動 内 容
はばタン賞	萩市立育英小学校 (山口県)	2013年7月に発生した水害に全国から集まったボランティアを見て、自主的に仮設住宅訪問等のボランティア活動を実施
	大船渡市立吉浜中学校 吉浜げんき隊 (岩手県)	東日本大震災で「奇跡の集落」と言われた地域を後世に伝えるため、演劇化した津波体験の発表や記念碑建立の取組みを実施
	兵庫県立淡路高等学校 社会研究部 (兵庫県)	阪神・淡路大震災を語り継ぐため、野島断層保存館での語り部活動や地元での防災意識調査実施のほか、震災を語り継ぐ曲作りを実施
	ACTION —students' project for 3.11— (宮城県)	気仙沼市大島で子ども達に改めて島の良さを知ってもらうため、子ども達と取材活動や記事作成のワークショップを実施し、島の魅力を伝える「しまだより」を発行

2 だいじょうぶ賞

防犯や街の身近な安全にも活用できる活動に対し授与。

区 分	学校・団体名	活 動 内 容
だいじょうぶ賞	仙台市立桂小学校 (宮城県)	5年生が総合的な学習の時間に防災学習に取り組み、6年生が学校の防災リーダーとして活動し、集団下校訓練時に通学路の安全マップを作成
	関西大学 学生団体 KUMC(大阪府)	地元の小学校を中心に、学校の特徴・要望にあわせたオリジナルの防災授業を実施

3 津波ぼうさい賞

津波避難訓練や津波対策に対する優れた取組みを行う学校に対し授与。

区 分	学校・団体名	活 動 内 容
津波 ぼうさい賞	奥尻町立青苗小学校 (北海道)	奥尻島津波語り部隊をゲストティーチャーに招き、高台に逃げる避難訓練や、命を守るためにやるべきことについて全校で話し合いを実施
	高知市立南海中学校 (高知県)	防災に関する取組みを行う実行委員会を立ち上げ、津波避難場所一覧の作成や地域一体での一斉避難訓練の参加呼びかけを実施
	高知県立須崎高等学校 (高知県)	大学生の意見も参考にしながら、新たな減災対策を提言としてまとめ、パートナー協定を締結している市に提出

4 教科アイデア賞

教科教育において取り組まれた優れた防災教育の取組みを行う学校に対し授与。

区 分	学校・団体名	活 動 内 容
教科 アイデア賞	黒潮町立佐賀小学校 (高知県)	独自に作成した防災キャラクターや防災カルタ、防災ソングを活用した防災教育の推進
	大阪市立鶴見橋中学校 (大阪府)	人権教育と命の大切さにつながる防災教育をあわせて「人権防災教育」と位置付け、「いのちの学校」としての学習を推進

5 継続こそ力賞

過去数年に渡り継続的に優れた取り組みを応募している学校に対し授与。

区 分	学校・団体名	活 動 内 容
継続こそ力賞	アトリエ太陽の子（兵庫県）	絵画を通した防災・復興支援として、サクラの絵を描く「命の一本桜プロジェクト」により、東日本大震災被災地の児童に勇気を与え、神戸との交流を継続
	印南町立印南中学校3年生 総合的な学習 津波研究班（和歌山県）	津波研究班の活動が10年目を迎えた今回は、町のハザードマップの避難場所や避難路の有効性を調査

6 フロンティア賞

過去に応募がなかった地域・分野での先導的な取り組みを行う学校に対し授与。

区 分	学校・団体名	活 動 内 容
フロンティア賞	上富田ふれあいルーム（和歌山県）	かまどベンチ炊き出し訓練の中学校、高等学校との合同実施や、安否札の作成等を実施
	西尾市立福地中学校（愛知県）	守られる中学生から守る中学生になるため、防災総合訓練や防災マップの作成等、地域の一員としての自覚と覚悟を高める活動を実施
	兵庫県立神戸聴覚特別支援学校（兵庫県）	地域参加型の地震・津波避難訓練の実施や、東日本大震災被災地でのボランティア活動を実施

7 新人賞

優れた取り組みを行っている初めての応募校に対し授与。

区 分	学校・団体名	活 動 内 容
新人賞	愛知県立知立東高等学校（愛知県）	防災リーダーが作成する防災新聞を1ヶ月おきに地域住民に配布するほか、学校独自のハザードマップを作成

カ 実施主体

兵庫県、毎日新聞社、(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構の共催

キ 後 援

内閣府、消防庁、文部科学省、国土交通省、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会、ひょうご安全の日推進県民会議、関西広域連合

ク 協 賛 UR都市機構

ケ 事務局 (特非)さくらネット

②⑤ 震災20年防災教育フォーラム

震災以降、兵庫県が進めてきた「兵庫の防災教育の取組」を総括し、震災の教訓を継承した取組みを県内外に発信するフォーラムを開催した。

1 | 日時・場所

平成26年11月11日(火) 10:30~15:30

神戸文化ホール 大ホール

2 | プログラム

10:30 朗読「語りかける目」

澤田 真優・宮崎 拓真 県立芦屋高等学校放送部
開会挨拶

高井 芳朗(兵庫県教育長) 震災20年防災教育フォーラム実行委員会委員長

10:45 基調講演「命を守り、絆を育む防災教育の新たな展開」

河田 恵昭 関西大学社会安全学部・社会安全研究センター長・教授

13:00 実践発表

13:50 パネルディスカッション

「学校、家庭、地域の連携ー防災教育で育むところ豊かで自立した人づくりー」

3 | フォーラムの内容

ア 基調講演「命を守り、絆を育む防災教育の新たな展開」

河田 恵昭 関西大学社会安全学部・社会安全研究センター長・教授

[主な内容] ・防災教育の原点は阪神・淡路大震災

- ・防災教育副読本を用いた防災教育は兵庫県教育委員会が先行、兵庫県は防災教育先進県
- ・命の尊さ、生きることの大切さを学ぶ防災教育は、地域とのつながりが大切 など

イ 実践発表「防災教育 舞子高校からの発信」

県立舞子高等学校環境防災科 大西 莉加・丸岡 佑亮

[主な内容] ・環境防災科の特徴・特別支援学校との防災交流・防災ジュニアリーダー育成事業 など

ウ パネルディスカッション「学校、家庭、地域の連携ー防災教育で育むところ豊かで自立した人づくりー」

○コーディネーター：中溝 茂雄 神戸市立住吉中学校校長

○パネラー：身崎 裕司 宮城県教育庁スポーツ健康課課長補佐

大石 伸雄 特定非営利活動法人兵庫県防災士会理事長

兼田奈津子 特定非営利活動法人さくらネット職員

山口 正明 三木市立緑が丘小学校教諭

[主な内容] ・学校、家庭、地域が連携した防災教育を推進する上での課題とポイント

- ・兵庫の防災教育を推進していくために など

エ ポスター展示「学校における防災教育の取組」

県内 小学校10校、中学校10校

高等学校7校、特別支援学校1校

4 | 参加者数

1,325名



②⑥ 阪神・淡路大震災20年事業 ～震災の教訓・経験から世界に貢献する都市へ～

阪神・淡路大震災から20年の節目を迎えるのを機に、復旧・復興の過程において世界からいただいた支援に対する感謝を表すとともに、神戸に培われてきた防災・減災文化を世界に普及させる契機とするため、兵庫県と神戸市が連携して、2016年に日本で開催される予定のサミット（主要国首脳会議）誘致に取り組んでいる。

神戸サミットの実現に向けて、県内・市内においてサミット誘致の広報活動を展開するとともに、震災を経験した神戸が、その経験と復興過程で得られた成果から世界の諸問題にどう貢献できるのか県民・市民に広く考えていただく機会とする講演会を開催した。

1 サミット誘致の広報活動

市内、県内の公共施設や私鉄・地下鉄の主要駅等において、サミット誘致PRポスターを掲示した。また、ハーバーランドやJR神戸駅前広場等ではサミット誘致PRバナーの掲出を行った。



2 講演会

1 日時・場所

平成26年11月19日(水) 18:00～20:00
神戸新聞 松方ホール

2 講演内容

「世界の課題と日本の役割」

池上 彰 氏（ジャーナリスト・東京工業大学教授）

- 〔主な内容〕
- ・阪神・淡路大震災の年はボランティア元年
 - ・サミットの歴史と警備面での神戸の優位性
 - ・いま世界が抱えている2つの問題 イスラム国とエボラ出血熱
 - ・防災、医療面で平和的に世界に貢献できる都市 神戸 など

■講演者プロフィール

池上 彰(いけがみ あきら)／1950年長野県生まれ。73年、NHKに記者として入局。94～2005年「週刊こどもニュース」キャスター。05年独立。12年から東京工業大学リベラルアーツセンター教授。大学で教える傍ら、取材・執筆、テレビ出演などの活動をしている。主な著書に「そうだったのか!現代史」「伝える力」「大人の教養」など。

3 参加者数

650名

②⑦ 兵庫県こころのケアセンター開設10周年記念 こころのケア国際シンポジウム

震災を起点として国内外の災害後に行われてきた「こころのケア」活動の課題を検証し、東日本大震災の支援活動の充実等に役立てるシンポジウムを開催した。

1 | 日時・場所

平成26年12月1日(月) 13時～18時
神戸国際会議場3階国際会議室

2 | プログラム

- 13:00 開会挨拶
- 13:15 兵庫県こころのケアセンター10年を振り返って
加藤 寛〔兵庫県こころのケアセンター センター長〕
- 13:45 <講演1> 東日本大震災被災地の現状：福島からの報告
- 14:35 <講演2> 災害時の心理的援助の方法
- 15:40 パネルディスカッション「こころのケアの連携を巡って」



3 | シンポジウムの内容

ア 講演 「東日本大震災被災地の現状：福島からの報告」

前田 正治 公立大学法人福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座教授

- 〔主な内容〕・福島における心理社会的問題
(放射能に対する恐怖、スティグマ等)
・支援者の疲弊(特に自治体職員)
・福島こころのケアセンターの活動紹介 など



イ 講演 「災害時の心理的援助の方法」

メリッサ・ブライマー 米国国立子どもトラウマティック・ストレスセンター テロ・災害対策部門長

- 〔主な内容〕・災害後の行動保健計画、効果的な災害後のこころのケアプログラム重要性
(安全・安心、おだやかさ、自己効力感、つながり、希望の5つの原則)
・サイコロジカル・ファーストエイド(PFA) 概要
・子ども向けプログラムTF-CBTの紹介 など

ウ パネルディスカッション「こころのケアの連携を巡って」

【座 長】

加藤 寛 兵庫県こころのケアセンター長

金 吉晴 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 災害時こころのケア情報センター長

【パネリスト】

メリッサ・ブライマー 米国国立子どもトラウマティック・ストレスセンター テロ・災害対策部門長

張 広雲 中華全国婦女連合会国際部アジア局長

前田 正治 公立大学法人福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座教授

松本 和紀 東北大学大学院医学系研究科予防精神医学寄付講座准教授

4 | 参加者数

240名

②⑧ IRP国際復興フォーラム2015

兵庫行動枠組を具体化する国際連携プロジェクトとして設立された国際復興支援プラットフォーム（IRP：International Recovery Platform）では、毎年1月、国内外からハイレベルの政策決定者や実務家、専門家を招いて「IRP国際復興フォーラム」を開催している。

今回はIRP設立10周年及び阪神・淡路大震災20年事業として実施し、兵庫県知事の基調講演や、世界各地の巨大災害からの復興についての議論を行った。



1 | 日時・場所

平成27年1月16日(金) 9:30～17:30 ホテルオークラ神戸「平安の間」

2 | 内容及びプログラム

09:30 オープニング

ジョー・ショウヤー IRP運営委員会議長（国連開発計画政策・計画支援局ディレクター）
赤澤 亮正 内閣府副大臣

09:45 基調講演

「ポスト兵庫行動枠組に向けて～阪神・淡路20年の取組から～」
井戸 敏三 兵庫県知事

新しい防災枠組について5つの提案（①創造的復興の推進、
②自治体による国際防災協力、③自治体における防災力の強化、
④防災教育や学習の重視、⑤災害教訓を整理・発信）を行った。

10:15 セッション I

「国及び地域における復興計画及び復興枠組への取組」

(1) 「米国における復興計画と復興枠組への取組」

エリザベス・ジーママン 米国連邦緊急事態管理庁(FEMA)
副長官

政府だけでなくNGO、企業等全てのコミュニティをパートナーとして捉えている。
ハリケーン・サンディでは、共通の枠組に基づき州を越えて復興に取り組んだ。

(2) 「バングラデシュにおけるナショナル・プラットフォーム 設立に向けた取組」

アクラム H. チャウドリー バングラデシュ災害復興戦略研究所理事長

より良い復興のためには、国家レベルで復興プランを作成するプラットフォームが必要であり、
災害復興基金や再建復興法の制定等制度整備に取り組んでいる。

(3) 「中米における包括的防災政策等について」

マイラ・ヴァレー・トーレス 中米防災
調整センター研修・教育コーディネーター
災害発生頻度が高く、被害も大きい中南米6カ
国による地域機関。
先住民等多様な文化に配慮しつつ災害管理や復
興、情報管理や損害評価の標準化に取り組んで
いる。



13:30 セッションⅡ「経済面での復興について」

(1)「開発途上国における経済復興」

河田 恵昭 人と防災未来センター長

地方でも都市でも災害に脆弱になっている。
また、被害の定量化が難しい文化等が復興しないと経済的
にも復興が難しい。

(2)「経済復興における生活復興の側面」

ナレシュ・シン 元国連開発計画上級アドバイザー

復興には生活の再建全般を含めて考えることが必要。仕事、職だけでなく、能力や資産、営業権
の確保等も視点に入れて復興プログラムを組み立てることが大切。

(3)「阪神・淡路大震災の経済的影響」

豊田 利久 神戸大学・広島修道大学名誉教授

インフラは目に見えて復興するのだが、中小企業や消費部門は復興が遅れがちであり、結果的に
産業構造の変動を導いたり、格差を拡大してしまうことになる。



15:30 パネルディスカッション「復興に向けた取組～阪神・淡路大震災の教訓と経験から～」

- ・通常の生活に戻すような復興には、現金を回して商業
を回復させたり、社会的弱者を守ってきた地域の文化的
背景も考慮しながら取り組む必要がある。
- ・人口動態を見据えた行動が必要、民主主義のプロセスが
復興に与える影響を慎重に検討すること、短期的ニーズ
だけでなく中長期的な要望も考慮することが大切である。
- ・保健の観点からは、社会的弱者を特定し、日々のニー
ズの把握、被災者も参加したケアのプランニング、継
続的なケアとサポートの提供と次のニーズを見据えた
取組みが復興には必要である。
- ・開発においても災害に対する備えが必要であり、小さな
コミュニティの連携が大切であることを学んだ。今後は、
災害に備えて基金を造成し、人道的な支援に役立てたい。



16:40 セッションⅢ「東北からのメッセージ」

(1)「東北一体となった復興推進に向けた取組」

大沼 久美 日本政策投資銀行東北復興支援室副調査役

震災の知見や教訓を収集し、今後にいかすプラットフォームとなる東北復興連合会議を設置し、
人材育成や市町村の災害リスクマネジメントの評価等の支援を実施。

(2)「東北大学からのメッセージ」

小野 裕一 東北大学災害科学国際研究所所長補佐・教授

防災を学際的に研究する東北大学災害科学国際研究所では、災害統計の整備、国際的な減災
フォーラムの開催等に取り組んでいる。

(3)「東日本大震災からの復興に向けた課題と取組」

大塚 大輔 宮城県震災復興・企画部理事兼次長

仙台空港の民営化、水産業復興特区、医学部の新設等創造的復興に取り組んでいる。
東日本に来ていただくことで経済が拡大する。是非お越しいただきたい。

17:20 フォーラム総括・閉会

齊藤 馨 内閣府政策統括官(防災担当) 付参事官(普及啓発・連携担当)

『Build Back Better』の考え方は国際社会でも広く浸透しつつあり、第3回国連
防災世界会議において本日のフォーラムの成果と併せて、これらの内容が後継
枠組に盛り込まれるよう今後とも関係者一同一丸となって取り組んでいきたい。



3 | 参加者数

36カ国・179名

② 兵庫県立大学 減災・復興国際シンポジウム

過去に大災害を経験した被災地の大学や将来の大災害に備える海外の大学を迎え、グローバルな視点に立って知見を共有・発信するフォーラムを開催した。



1 | 日時・場所

平成27年2月7日(土) 13:00~17:20 ラッセホール

2 | プログラム

- 13:00~13:05 開会 主催者挨拶:兵庫県立大学理事長兼学長 清原 正義
13:05~13:20 来賓挨拶:兵庫県副知事 吉本 知之
来賓挨拶:文部科学省高等教育局国際企画専門官 佐藤 邦明
13:20~14:30 基調講演「阪神・淡路大震災における危機管理~BCPの視点とその後の“まち”の復興と教訓~」
14:45~16:45 パネルディスカッション「減災・復興に関する教育/研究への取組み」
16:45~17:15 減災・復興国際アカデミック・ネットワーク共同宣言
17:15~17:20 閉会 挨拶:兵庫県立大学理事兼副学長 高坂 誠

3 | 講演・報告内容

ア 基調講演「阪神・淡路大震災における危機管理~BCPの視点とその後の“まち”の復興と教訓~」

遠藤 勝裕 日本学生支援機構理事長(元日本銀行神戸支店長)

[主な内容] 東日本大震災の復興を進める上で、阪神・淡路大震災の復興を反省する視点から、今後本格化する経済復興への取組みについて、復興予算の使い道等、国主導ではなく被災地市民はもとより日本人全体の当事者意識の必要性を改めて投げかけた。

イ パネルディスカッション「減災・復興に関する教育/研究への取組み」

○コーディネーター:兵庫県立大学防災教育センター長 室崎 益輝

○パネリスト

- ・カンタベリー大学(ニュージーランド)ハザード・リスクマネジメントプログラムリーダー デイビス・ティム
- ・チリ・カトリカ大学国立自然災害統合的管理研究センター長 ソト・ホアン
- ・ガジャマダ大学学長(インドネシア)カルナワティ・ドウィコリタ
- ・中東工科大学(トルコ)防災研究所長 ブルチャック・バスブグエルガン
- ・宮城大学副学長 森山 雅幸
- ・四川大学香港理工大学災害復興管理学院執行院長 顧 林生

[主な内容] 各大学における減災・復興に関わる教育・研究への取組み など

ウ 減災・復興国際アカデミック・ネットワーク宣言

参加大学が相互に連携し交流を拡げていく、減災・復興に関する大学間ネットワーク“GAND”(Global Academic Network for Disaster Reduction and Reconstruction)を創設を宣言した。

[参加大学] カンタベリー大学(ニュージーランド)、カトリカ大学(ペルー)、ガジャマダ大学(インドネシア)、中東工科大学(トルコ)、宮城大学、四川大学(中国)、兵庫県立大学

■「減災・復興に関する教育・研究グローバル・ネットワーク(GAND)」神戸宣言(平成27年2月7日)」の概要

社会科学の分野における減災・復興に関する教育・研究について、次の事業に取り組む。

- (1)各大学における教育・研究等学術情報の交流・蓄積・発信
- (2)学生、教員、研究者の人的相互交流
- (3)各大学間における国際共同研究
- (4)交流プログラム・関連科目の共同開発、単位互換・共同での講義の実施
- (5)各大学が所在する地域での減災・復興に関する大学及び研究機関の連携・ネットワークの拡大等

4 | 参加者数

200名